

千葉県八千代市

市内遺跡発掘調査報告書

高津宮ノ前遺跡 c 地点
井戸向遺跡 e 地点
埴久保遺跡 a 地点
蛸池台遺跡 b 地点
南海道遺跡 d 地点
高津宮ノ前遺跡 d 地点
大山遺跡 f 地点
白幡前遺跡 k 地点
新林遺跡 j 地点
北裏畑遺跡 k 地点
境堀遺跡 b 地点・神野群集塚
白幡前遺跡 l 地点
下宿東遺跡 c 地点
白幡前遺跡 m 地点
門原遺跡 c 地点
南海道遺跡 e 地点
上谷津台南遺跡 l 地点
菅地ノ台遺跡 g 地点
道地遺跡 l 地点

令和 6 年度

八千代市教育委員会

例 言

- 1 本書は、八千代市教育委員会が令和5年度市内遺跡発掘調査事業として、国庫及び県費の補助を受けて実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。報告書作成作業は、令和6年度事業として行った。
- 2 調査は千葉県教育委員会の指導を受け、八千代市教育委員会が直営で実施した。
- 3 令和5年度における本事業の調査体制は以下の通りである。

調査主体者	小林 伸夫	八千代市教育委員会	教育長
	春田 泰宏	八千代市教育委員会	教育次長
事務担当	宮澤 久史	八千代市教育委員会文化・スポーツ課	主幹（文化財担当）
	向後 喜紀	八千代市教育委員会文化・スポーツ課	主査
調査担当	宮澤 久史	八千代市教育委員会文化・スポーツ課	主幹（文化財担当）
	宮下 聡史	八千代市教育委員会文化・スポーツ課	主任文化財主事
	森 竜哉	八千代市教育委員会文化・スポーツ課	主任主事
	川名 瑞希	八千代市教育委員会文化・スポーツ課	文化財主事
- 4 整理作業は、調査時の基礎整理、資料の収集・整理を宇都洋子、杵島由希、鈴木薫が、出土土器等の拓本・実測・遺構、遺物のトレースを柴田清加、長谷川恵理子が、遺物の写真、本文の執筆・編集を森・向後が行った。なお、縄文式土器については玉井庸弘氏にご協力をいただいた。
- 5 発掘調査により作成した遺跡関連図・写真類・出土遺物等は全て八千代市教育委員会が保管している。

目 次

I 本書掲載遺跡の立地と環境	1
II 発掘調査成果	7
① 高津宮ノ前遺跡 c 地点	7
⑥ 高津宮ノ前遺跡 d 地点	8
② 井戸向遺跡 e 地点	8
③ 婦久保遺跡 a 地点	10
④ 蛸池台遺跡 b 地点	11
⑤ 南海道遺跡 d 地点	12
⑬ 南海道遺跡 e 地点	12
⑦ 大山遺跡 f 地点	15

⑧ 白幡前遺跡 k 地点	18
⑫ 白幡前遺跡 l 地点	20
⑬ 白幡前遺跡 m 地点	20
⑨ 新林遺跡 j 地点	23
⑩ 北裏畑遺跡 k 地点	25
⑪ 境堀遺跡 b 地点・神野群集塚	26
⑬ 下宿東遺跡 c 地点	28
⑮ 門原遺跡 c 地点	29
⑰ 上谷津台南遺跡 l 地点	30
⑱ 菅地ノ台遺跡 g 地点	32
⑲ 道地遺跡 l 地点	34

挿図目次

図1 令和5年度市内遺跡調査地点位置図	6
図2 高津宮ノ前遺跡 c 地点・d 地点 (1)	7
図3 高津宮ノ前遺跡 d 地点 (2)	8
図4 井戸向遺跡 e 地点	9
図5 掃久保遺跡 a 地点	10
図6 蛸池台遺跡 b 地点 (1)	11
図7 蛸池台遺跡 b 地点 (2)	12
図8 南海道遺跡 d 地点 (1)	12
図9 南海道遺跡 d 地点 (2)	13
図10 南海道遺跡 e 地点 (1)	14
図11 南海道遺跡 d 地点 (3)	14
図12 南海道遺跡 d 地点 (4)	15
図13 大山遺跡 f 地点 (1)	15
図14 大山遺跡 f 地点 (2)	16
図15 大山遺跡 f 地点 (3)	17
図16 白幡前遺跡 k, l, m 地点	18
図17 白幡前遺跡 k 地点 (1)	19
図18 白幡前遺跡 l, m 地点 (1)	20
図19 白幡前遺跡 k 地点 (2)	21
図20 白幡前遺跡 k 地点 (3)	22
図21 白幡前遺跡 m 地点 (1)	23

図22	新林遺跡 j 地点 (1)	23
図23	新林遺跡 j 地点 (2)	24
図24	北裏畑遺跡 k 地点	25
図25	埴堀遺跡 b 地点・神野群集塚 (1)	26
図26	埴堀遺跡 b 地点・神野群集塚 (2)	27
図27	埴堀遺跡 b 地点・神野群集塚 (3)	28
図28	下宿東遺跡 c 地点 (1)	28
図29	下宿東遺跡 c 地点 (2)	29
図30	門原遺跡 c 地点	30
図31	上谷津台南遺跡 l 地点	31
図32	菅地ノ台遺跡 g 地点 (1)	32
図33	菅地ノ台遺跡 g 地点 (2)	33
図34	菅地ノ台遺跡 g 地点 (3)	34
図35	道地遺跡 l 地点	35

図版目次

図版1	高津宮ノ前遺跡 c, d 地点・井戸向遺跡 e 地点・埴久保遺跡 a 地点
図版2	蛸池台遺跡 b 地点・南海道遺跡 d, e 地点
図版3	大山遺跡 f 地点・白幡前遺跡 k 地点・白幡前遺跡 l 地点
図版4	白幡前遺跡 m 地点・新林遺跡 j 地点・北裏畑遺跡 k 地点
図版5	埴堀遺跡 b 地点・神野群集塚・下宿東遺跡 c 地点・門原遺跡 c 地点
図版6	上谷津台南遺跡 l 地点・菅地ノ台遺跡 g 地点・道地遺跡 l 地点
図版7	[遺物] 高津宮ノ前遺跡 d 地点・蛸池台遺跡 b 地点・南海道遺跡 d 地点
図版8	[遺物] 大山遺跡 f 地点・白幡前遺跡 k 地点 (1)
図版9	[遺物] 白幡前遺跡 k 地点 (2)・白幡前遺跡 m 地点・新林遺跡 j 地点
図版10	[遺物] 下宿東遺跡 c 地点・埴堀遺跡 b 地点・神野群集塚・菅地ノ台遺跡 g 地点

I 本書掲載遺跡の立地と環境

八千代市は都心から東へ30km、千葉市の市街地中心部から北へ約13km、千葉県の北西部地域で印旛沼西岸に位置する。市域は房総半島の内陸部にあり、地形は平坦な下総台地とそれを樹枝状に開析する河川や谷津で構成されている。

市域の下総台地は、三つの地形面で構成されている。下総上位面は大地全体に広く分布し、最も上位に位置する。下総下位面は神崎川の兩岸や新川の西岸、旧印旛沼の南岸、神崎川の南岸、桑納川の南岸、新川の西岸、高津川の南岸、勝田川の兩岸などにみられ、複数の段丘面で構成される下位の段丘面群である。

市域の中央を南北に貫く新川（印旛放水路）は、上流域では勝田川、下流域ではかつて平戸川と呼ばれており、本来、印旛沼水系に属していた。千葉市の長沼から大日一帯を水源とし、南から北に流下し、その左岸から高津川（八千代1号幹線）・桑納川・神崎川が合流し、平戸で流れを東に変え、印旛沼に流れ込む。戦後、大和田排水機場の完成と江戸時代から進められていた新川と花見川の開通により、現在は印旛沼が増水した時に湖水を東京湾に流す放水路となっている。

市内を流れる河川は、市域の大地を大きく大和田・睦・阿蘇の3つの区域に区分している。

以下、本書掲載の遺跡について説明する。

- ①⑥ 高津宮ノ前遺跡は市域西部、高津川を北に臨む台地上に位置する。これまでに市により2地点の確認調査が行われたが、遺構は確認されていない。
- ② 井戸向遺跡は市域中央部、新川を東に臨む台地上に位置する。これまでに土地区画整理事業に先行して、(財)千葉県文化財センターにより26地点の確認本調査が実施され、旧石器時代の石器群や弥生時代後期・古墳時代前期・奈良平安時代の堅穴住居跡等が確認されている。また市により4地点の確認調査とそれに継続した本調査1地点が行われ、縄文時代陥穴等が確認されている。同様の遺構成果が期待される。
- ③ 埴久保遺跡は市域北部、桑納川を南に臨む台地上平坦部に位置する。今回の調査が初めてであり、縄文時代中後期、奈良・平安時代の包蔵地であることから、当該時期の成果が期待される。
- ④ 蛸池台遺跡は市域中央部、新川を東に臨む台地平坦面に位置する。これまでに1地点の確認調査が行われ、古墳時代の溝等が確認されている。同様の成果が期待される。
- ⑤⑬ 南海道遺跡は市域中央部、新川を東に臨む台地平坦面上に位置する。これまでに3地点の確認調査とそれに継続した本調査1地点が行われ、縄文時代前期ピット群、古墳時代中後期堅穴建物跡や奈良時代堅穴建物跡等が確認されている。当該時期の遺構展開が想定される。
- ⑦ 大山遺跡は市域中央部、新川を西に臨む台地平坦面上に位置する。これまでに6地点の確認調査とそれに継続した本調査1地点が行われ、縄文時代前期土器片や弥生時代堅穴建物跡等が確認されており、当該時期の遺構が想定される。
- ⑧⑫⑭ 白幡前遺跡は市域中央部、新川を東に臨む台地平坦面上に位置する。これまでに土地区画整理事業に先行して、(財)千葉県文化財センターにより18地点の確認本調査が実施され、奈良平安時代堅穴建物跡・掘立柱建物跡を主体として、旧石器時代ブロック等が確認されている。また市により9地点の確認調査とそれに継続した本調査7地点が行われ縄文時代陥穴、弥生時代後期・奈良平

- 安時代堅穴建物跡が確認された。また低位段丘面で中近世掘立柱建物跡群等が確認され、当該時期の遺構が想定される。
- ⑨ 新林遺跡は市城南東部、新川を西に臨む台地上平坦面に位置する。これまでに9地点の確認調査とそれに継続した本調査4地点が行われ、縄文時代前中期堅穴建物跡・陥穴や近世シシ穴等が確認されており、当該時期の遺構が想定される。
- ⑩ 北裏畑遺跡は市域中央部、新川を東に臨む台地上平坦面に位置する。これまでに10地点の確認調査とそれに継続した確認本調査2地点の調査が行われ、縄文時代陥穴や中近世炭窯・土坑等が確認された。当該時期の遺構が想定される。
- ⑪ 境堀遺跡、神野群集塚は市域北部、新川を北に臨む台地上平坦面に位置する。これまでに八千代カルチャータウンに先行した発掘調査を中心として、境堀遺跡では8次の確認調査・本調査が、神野群集塚では3次の本調査が行われ、それぞれ縄文時代中期・弥生時代後期・奈良平安時代の堅穴建物跡等、中近世塚等が確認されており、当該時期の遺構が想定される。
- ⑬ 下宿東遺跡は市域中央部、新川を西に臨む台地上平坦面に位置する。これまでに2地点の確認調査、本調査が行われ、縄文時代中期土器片・弥生土器片・奈良平安時代土師器須恵器片や中世土坑等が確認されている。当該時期の遺構が想定される。
- ⑮ 門原遺跡は市域南部、高津川を北に臨む台地上平坦面に位置する。これまでに2地点の確認調査が行われ、遺構は確認されていないが、奈良平安時代の土師器散布地であり、当該時期の遺構が想定される。
- ⑰ 上谷津台南遺跡は市域東部、小竹川を東に臨む台地上平坦面に位置する。これまでに11地点の確認調査とそれに継続した2地点の本調査が行われ、縄文時代後期土器片や磨製石斧・石鎌等の石器、縄文時代陥穴等が確認されており、当該時期の遺構が想定される。
- ⑱ 菅地ノ台遺跡は市域中央部、新川を東に臨む台地上平坦面に位置する。これまでに6地点の確認調査とそれに継続した5地点の本調査が行われ、弥生時代後期・古墳時代中期・奈良平安時代堅穴建物跡等が確認されており、当該時期の遺構が想定される。
- ⑲ 道地遺跡は市域北部、新川を東に臨む台地上平坦面に位置する。これまでに県道布設事業に先行して、助千葉県文化財センターにより18,277㎡の確認本調査が行われ、弥生時代後期～古墳時代前期の堅穴住居跡を主体として、縄文時代中期土器片・石器・土製品や弥生～古墳時代前中期の土製品・ガラス玉・金属製品等が確認されている。また市により11地点の確認調査とそれに継続した本調査2地点が行われ、縄文時代中期堅穴住居跡や助千葉県文化財センターと同様の成果が得られている。今回も当該時期の遺構が想定される。

【参考文献】

高津宮ノ前遺跡

1991 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告 平成2年度」

2019 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成30年度」

井戸向遺跡

1987 千葉県文化財センター「八千代市井戸向遺跡 萱田地区埋蔵文化財調査報告書Ⅳ」

1993 住宅・都市整備公団 首都圏都市開発本部・千葉県文化財センター「八千代市権現後遺跡・北海道遺跡・井戸向遺跡 萱田地区埋蔵文化財調査報告書Ⅶ」

2007 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成18年度」

2011 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成22年度」

2016 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成27年度」

2017 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成28年度」

東郷久保遺跡

2015 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成26年度」

蛸池台遺跡

2009 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成20年度」

2023 鈴木 誠治・八千代市教育委員会「千葉県八千代市蛸池台遺跡 b 地点 集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」

南海道遺跡

2012 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成23年度」

2013 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成24年度」

2020 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 令和元年度」

2019 関口 幸男・八千代市教育委員会「千葉県八千代市南海道遺跡 c 地点 宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」

大山遺跡

2005 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成16年度」

2019 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成30年度」

2020 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 令和元年度」

2019 株式会社 神正・八千代市教育委員会「千葉県八千代市大山遺跡 d 地点 宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」

2021 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 令和2年度」

白幡前遺跡

1991 千葉県文化財センター「八千代市白幡前遺跡 萱田地区埋蔵文化財調査報告書Ⅴ 図版編」

1994 日本鉄道建設公団・千葉県文化財センター「八千代市沖塚遺跡・上の台遺跡他 東葉高速鉄道埋蔵文化財調査報告書」

2003 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成14年度」

2009 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成20年度」

2009 君塚 克己・八千代市教育委員会「千葉県八千代市白幡前遺跡 e 地点 共同住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」

2015 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成26年度」

2016 君塚 ミチ・八千代市教育委員会「千葉県八千代市白幡前遺跡 d 地点 宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」

2016 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成27年度」

2015 玉井 正博、亮子・八千代市教育委員会「千葉県八千代市白幡前遺跡 e 地点 福祉施設建設に

伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」

2017 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成28年度」

2020 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 令和元年度」

2020 株式会社オカムラホーム・八千代市教育委員会「千葉県八千代市白幡前遺跡h地点 宅地造成に伴う埋蔵文化財調査報告書」

2023 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 令和4年度」

2023 株式会社AssureDream・八千代市教育委員会「千葉県八千代市白幡前遺跡i地点 宅地造成に伴う発掘調査報告書」

新林遺跡

2007 日立造船不動産株式会社・八千代市二重堀遺跡調査会・八千代市新林遺跡調査会「二重堀遺跡・新林遺跡 千葉県八千代市埋蔵文化財発掘調査報告書」

1995 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成6年度」

1998 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成9年度」

2007 岩井 きみ・八千代市遺跡調査会「千葉県八千代市新林遺跡e地点発掘調査報告書 共同住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査」

1999 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成10年度」

2002 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成13年度」

2003 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成14年度」

2003 八千代市上高野第1土地区画整理組合・八千代市遺跡調査会「千葉県八千代市黒沢池上・新林遺跡発掘調査報告書 土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査」

2018 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成29年度」

2019 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成30年度」

2020 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 令和元年度」

2024 池田 義久・八千代市教育委員会「千葉県八千代市新林遺跡j地点 宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」

北裏畑遺跡

2002 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成13年度」

2008 八千代市教育委員会「千葉県八千代市不特定遺跡発掘調査報告書V」

2013 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成24年度」

2014 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成25年度」

2016 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成27年度」

2019 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成30年度」

2021 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 令和2年度」

境堀遺跡

2005 大成建設株式会社・八千代市遺跡調査会「千葉県八千代市境堀遺跡 (仮称) 八千代カルチャータウン開発事業関連埋蔵文化財調査報告書IV」

神野群集塚

2005 大成建設株式会社・八千代市遺跡調査会「千葉県八千代市境堀遺跡 (仮称) 八千代カルチャー

タウン開発事業関連埋蔵文化財調査報告書Ⅳ

下宿東遺跡

2005 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成16年度」

上谷津台南遺跡

1997 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成8年度」

2000 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成12年度」

2002 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成13年度」

2007 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成18年度」

2012 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成23年度」

2013 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成24年度」

2015 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成26年度」

2016 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成27年度」

2021 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 令和2年度」

管地ノ台遺跡

1989 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡群発掘調査報告 昭和63年度」

1990 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡群発掘調査報告 平成元年度」

1993 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告 平成4年度」

2005 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成16年度」

2018 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成29年度」

2021 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 令和2年度」

道地遺跡

1986 八千代市教育委員会「千葉県八千代市平戸道地遺跡 農業道路敷設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」

2004 都市基盤整備公団、千葉県文化財センター「船橋印西線埋蔵文化財調査報告書2 八千代市道地遺跡」

2003 八千代市教育委員会「千葉県八千代市公共事業関連遺跡発掘調査報告書」

2006 独立行政法人都市再生機構・千葉県教育振興財団「船橋印西線埋蔵文化財調査報告書5 八千代市鳥田込ノ内遺跡(2)・間見穴遺跡(3)・道地遺跡(2)」

2008 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成19年度」

2009 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成20年度」

2009 YAMAテック株式会社・八千代市教育委員会「千葉県八千代市道地遺跡e地点・平戸台8号墳 資材置場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」

2012 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成23年度」

2013 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成24年度」

2015 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成26年度」

2023 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 令和4年度」

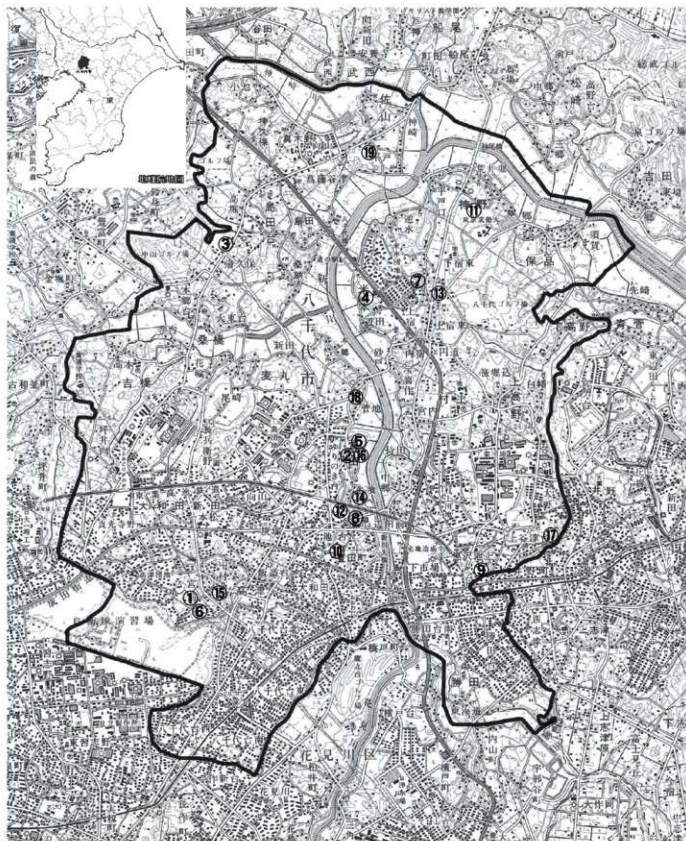


図1 令和5年度市内遺跡調査地点位置図

- ①高津宮ノ前遺跡c地点 ②井戸向遺跡e地点 ③堀久保遺跡a地点 ④蛸池台遺跡b地点 ⑤南海道遺跡d地点
 ⑥高津宮ノ前遺跡d地点 ⑦大山遺跡f地点 ⑧白幡前遺跡k地点 ⑨新林遺跡j地点 ⑩北裏掘遺跡k地点
 ⑪地廻遺跡b地点・神野群集塚 ⑫白幡前遺跡l地点 ⑬下宿東遺跡c地点 ⑭白幡前遺跡m地点
 ⑮門原遺跡c地点 ⑯南海道遺跡e地点 ⑰上谷津台南遺跡l地点 ⑱菅地ノ台遺跡g地点 ⑲道地遺跡l地点

Ⅱ 発掘調査成果

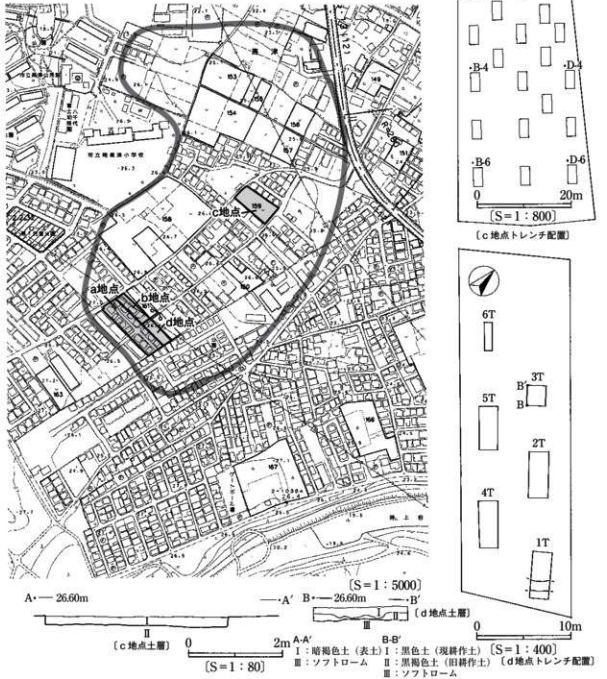


図2 高津宮ノ前遺跡c地点・d地点(1)

① 高津宮ノ前遺跡c地点(図2 図版1)

○調査概要

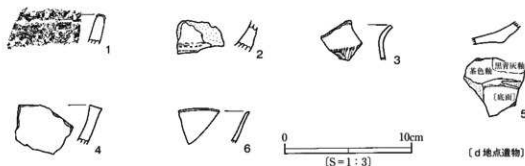
〔所在地〕 八千代市高津字大門474番1, 2 〔調査原因〕 宅地造成

〔調査期間〕 令和5年4月19日～令和5年4月25日 〔調査面積〕 上層160㎡/1507㎡

〔調査種別〕 確認調査 〔遺構〕 なし 〔遺物〕 なし

○調査所見

包蔵地は中央の台地平坦面に位置する。南側谷津までの距離があり、居住空間としての利便性に適さないため、その他の土地利用が想定される。



⑥ 高津宮ノ前遺跡d地点(図2.3 図版1.7)

○調査概要

〔所在地〕 八千代市高津字大門455 〔調査原因〕 その他建物(建売住宅)

〔調査期間〕 令和5年6月5日～令和5年6月15日 〔調査面積〕 上層46.6㎡/426㎡

〔調査種別〕 確認調査 〔遺構〕 近世溝1条

〔遺物〕 縄文時代土器, 近世以降陶磁器・土器

○調査所見

包蔵地南側の台地平坦面に位置する。近世溝1条を確認した。遺物は客体的に縄文土器, 近世以降の陶磁器・土器が出土していることから, 近世以降での土地利用が想定される。

器種	器形	部位	計測値 (cm)			焼成	色調	胎土	調整・文様等
			器高	口径	底径				
1	縄文式土器	口縁部	-	-	-	良	内外淡褐色	雲母, 白色粒	型式不明。砲弾形の内縁部片。口唇部粘土被せ後, 粘条体押圧。口縁部無文帯下, 単筋条文。表採。
2	近世土器	焙烙	-	-	-	良	外黒褐色(煤付着)内暗褐色	雲母多含, 砂粒	内外ロクロナテ。ST
3	近世土器	壺	-	-	-	極めて良好	内外赤茶色	ち密	ロクロ使用。外面磨目文。ST
4	近世土器	鉢小	-	-	-	良	内外褐色	長石, 雲母	4T
5	近世施釉陶器	底部	-	-	-	良		ち密	外面茶色釉, 黒青灰釉。内面及び底面無釉。2T
6	近世白磁碗	口縁部	-	-	-	良			2T

図3 高津宮ノ前遺跡d地点(2)

② 井戸向遺跡e地点(図4 図版1)

○調査概要

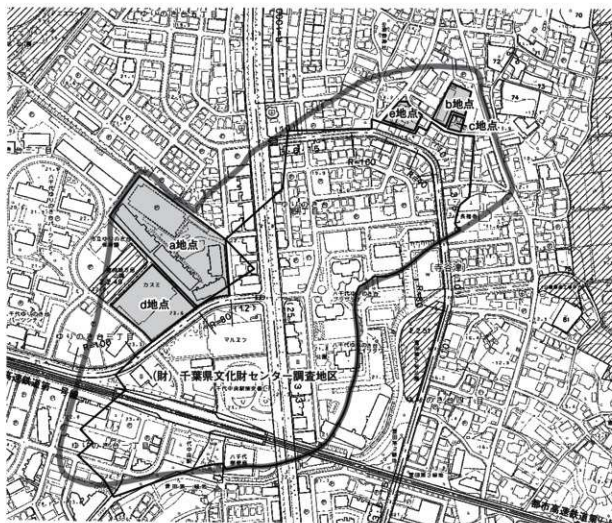
〔所在地〕 八千代市萱田字寺ノ台1498番2他 〔調査原因〕 宅地造成

〔調査期間〕 令和5年5月9日～令和5年5月18日 〔調査面積〕 上層94㎡/962.03㎡

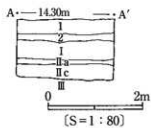
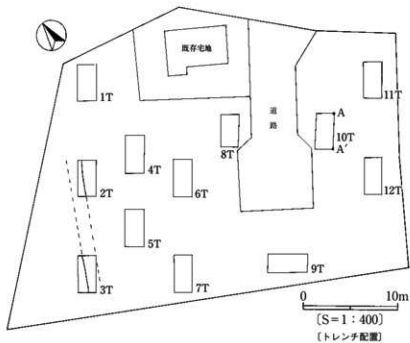
〔調査種別〕 確認調査 〔遺構〕 なし 〔遺物〕 なし

○調査所見

遺構は時期不詳の溝が1条検出された。県文化財センター調査の近接地においても同様の溝が確認されている。また市調査のb地点では陥穴1基が検出されている。結果として遺構が希薄な地点であることが確認された。本遺跡の主体は, 南側の寺谷津に面する緩傾斜面に, 奈良平安時代の堅欠建物跡及び掘立柱建物跡群が展開している。



[S=1:5000]



1.2: 整地土
 I: 暗褐色土
 IIa: 黒褐色土
 IIc: 暗褐色土
 III: ソフトローム
 (土層)

図4 井戸向遺跡e地点

③ 彌久保遺跡 a地点 (図5 図版1)

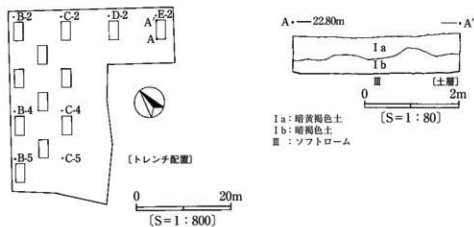
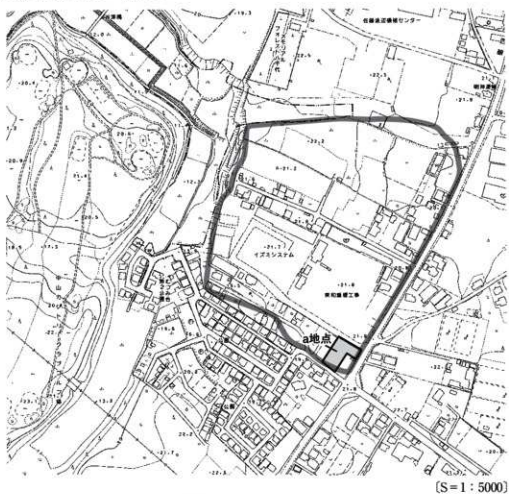


図5 彌久保遺跡 a地点

○調査概要

〔所在地〕 八千代市島田台字西彌久保1289番38 〔調査原因〕 福祉施設建設

〔調査期間〕 令和5年5月15日～令和5年5月19日 〔調査面積〕 上層96㎡/969.81㎡

〔調査種別〕 確認調査 〔遺構〕 なし 〔遺物〕 なし

○調査所見

遺構は確認されなかった。主体は西側の鈴見川に面する谷津の台地縁辺部に想定されよう。

④ 蛸池台遺跡b地点 (図6.7 図版2.7)

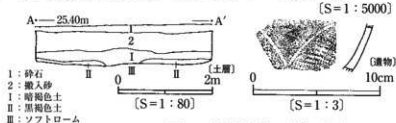
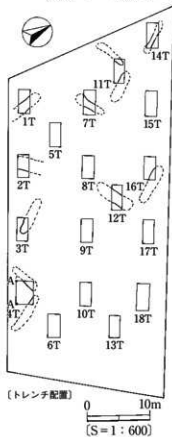


図6 蛸池台遺跡b地点 (1)

○調査概要

【所在地】 八千代市米本字原内2167-19

【調査原因】 集合住宅

【調査期間】 令和年5月30日～令和5年6月7日

【調査面積】 上層148㎡/1244.39㎡

【調査種別】 確認調査 【遺構】 弥生時代中期方形周溝墓6基

【遺物】 縄文時代土器 (後期)

○調査所見

遺構は弥生時代中期方形周溝墓を確認した。遺物は本遺構に関連しない縄文土器が出土しているが、西側畑地において、弥生時代中期壺類7点が発見されており、本遺構の裏付けとなろう。なお、確認調査後に一부분調査を実施し、2023 (R5) 年12月に報告書を刊行した。参照されたい。

器種	器形	部位	計測値 (cm)			焼成	色調	胎土	調整・文様等
			器高	口径	底径				
1 縄文式土器	深鉢	胴部	-	-	-	良	内外深赤褐色	雲母、白色粒、小石粒	入組連弧文内に縄文施文。後期安行式。I2T

図7 蛸池台遺跡b地点 (2)

[遺物観察表]

⑤ 北海道遺跡d地点 (図8.9.11.12 図版2.7)

○調査概要

〔所在地〕 八千代市萱田748番2 〔調査原因〕 宅地造成

〔調査期間〕 令和5年5月29日～令和5年6月8日 〔調査面積〕 上層188m²/1817.31m²

〔調査種別〕 確認調査

〔遺構〕 古墳時代竪穴建物跡4棟、奈良平安時代掘立柱建物跡1棟・土坑2基、近現代溝6条

〔遺物〕 縄文時代土器(前期末葉・中期前半～中葉)、古墳時代(前期)土師器、奈良平安時代土師器・須恵器

○調査所見

確認した遺構は古墳時代、奈良平安時代の竪穴建物跡、掘立柱建物跡で、近接地調査のa～c地点での調査成果に類似する。今回遺物に、古墳時代前期の台付麁片が出土したことから、同時期からの土地利用が想定されよう。縄文時代では、他地点の土器出土状況と同様な傾向で、石器類の出土や竪穴建物跡が見られないことから、定住としての土地利用は想定し難い。

⑩ 北海道遺跡e地点 (図9.10 図版2)

○調査概要

〔所在地〕 八千代市萱田字下ノ庭1027番8、萱田町字北海道474番4 〔調査原因〕 個人住宅

〔調査期間〕 令和6年2月13日～令和6年2月20日 〔調査面積〕 上層10m²/102.5m²

〔調査種別〕 確認調査 〔遺構〕 なし 〔遺物〕 なし

○調査所見

遺構、遺物とも確認されなかった。これまでのa～c及びd地点では、古墳時代以降の生活痕跡が確認されている。標高10.2m～11.2mでの確認であり、今回調査地点はやや下がる10mを示す。比高差による遺構展開といえるかどうかは、今後の調査実績を待つこととしたい。

器種	器形	部位	計測値 (cm)			焼成	色調	胎土	調整・文様等
			器高	口径	底径				
1 縄文式土器	深鉢	胴部	-	-	-	良	外橙褐色 内橙褐色	雲母、白色粒、石英	前期興津式。三角文。B-3-4G
2 縄文式土器	深鉢	胴部	-	-	-	良	内外茶褐色	雲母、白色粒、小石粒	前期興津Ⅱ式。磨目貝殻文。B-2-4G 貝殻垂直刺突。並行沈線区画→磨目。
3 縄文式土器	深鉢	口縁部	-	-	-	良	内外茶褐色	雲母、石英、小石粒	中期五領→台1式(細線文系)。 口縁部交互刺突文。4と同一個体。B-2-4G
4 縄文式土器	深鉢	胴部	-	-	-	良	外橙褐色 内茶褐色	雲母、石英	中期五領→台1式(細線文系)。 細沈線文。3と同一個体。B-2-4G
5 縄文式土器	深鉢	胴部	-	-	-	良	内外橙褐色	雲母少、白色粒、小石粒	中期阿玉台1式。在地東側。ヒダ状文+垂下隆帯。E-4-4G
6 縄文式土器	深鉢	口縁部	-	-	-	良	外橙褐色 内淡橙褐色	雲母、白色粒、赤色粒	中期阿玉台1式。在地東側。口縁部貼付文が剥落。粘土追加整形によるヒダ状文。F-4-1G
7 縄文式土器	深鉢	胴部	-	-	-	良	外橙褐色 内暗褐色	雲母、白色粒	中期阿玉台1式。在地東側。ヒダ状圧痕文。C-4-4G
8 縄文式土器	深鉢	口縁部	-	-	-	良	内外淡褐色	雲母、白色粒	中期阿玉台1式。在地東側。隆帯に沿う1条の有筋沈線文。C-6-4G
9 縄文式土器	深鉢	胴部	-	-	-	良	内外淡橙褐色	雲母、白色粒、砂粒	中期阿玉台1式。内面に沈線あり。隆帯に沿う1条の有筋沈線文。C-6-4G
10 縄文式土器	深鉢	胴部	-	-	-	良	外茶褐色 内淡橙褐色	白色粒、雲母	中期阿玉台Ⅱ～Ⅳ式。D-4-4G 下隆帯+地文縄文。隆帯上に縄文施文。

図8 北海道遺跡d地点 (1)

[d地点遺物観察表 (1)]

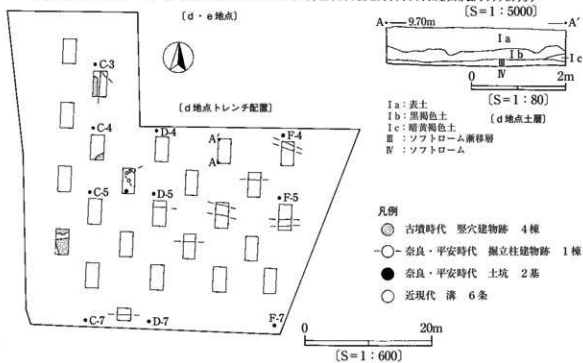


図9 南海道遺跡d地点(2)

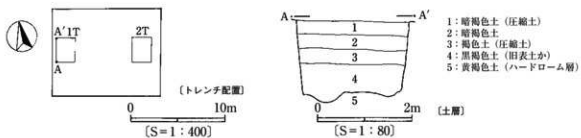


図10 南海道遺跡e地点 (1)

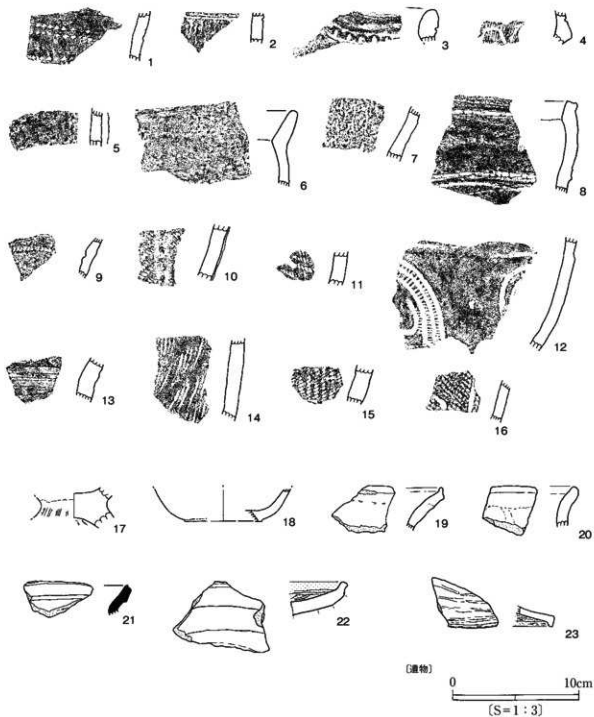


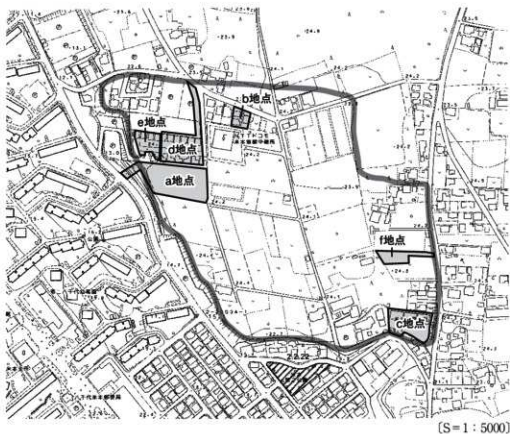
図11 南海道遺跡d地点 (3)

器種	器形	部位	計測値 (cm)			焼成	色調	胎土	調整・文様等	
			器高	口径	底径					
11	縄文式土器	深鉢	胴部	-	-	-	良	内外淡褐色	雲母、白色粒、砂粒	中期勝版式。地文縄文。F-6-1G
12	縄文式土器	深鉢	胴部	-	-	-	良	外橙褐色 内暗褐色	雲母、石英、白色粒	中期勝版式。C-4-4G 沈瀬 + キヤタピラ文による意匠文。
13	縄文式土器	深鉢	胴部	-	-	-	良	内外茶褐色	雲母、白色粒、長石粒	中期勝版式。太い糸織文。E-4-1G
14	縄文式土器	深鉢	胴部	-	-	-	良	外茶褐色 内暗褐色	白色粒、小石粒	中期勝版式。地文縦位の懸糸文。C-5-4G
15	縄文式土器	深鉢	胴部	-	-	-	良	外橙褐色 内淡褐色	白色粒、赤色粒、砂粒	中期勝版式。地文縄文。D-4-4G
16	縄文式土器	深鉢	胴部	-	-	-	良	外淡橙褐色 内黒褐色 (コゲ)	雲母、白色粒	中期後半～後期前半。地文縄文 + 沈瀬文。 D-6-1G
17	土師器	台付甕	脚部	-	-	-	良	内外暗茶褐色	白色粒、雲母	脚部外面ハケ目整形。内面ヘラナデ。F-4-1G
18	土師器	埴	底部	(2.5)	-	6.0	良	内外橙褐色	雲母、白色粒、赤色粒	ロク口使用。内外ロクロナデ。E-4-1G
19	土師器	甕	口縁部	-	-	-	良	内外淡橙褐色	雲母、長石、石英	内外ナデ。常陸型甕。C-4-4G
20	土師器	甕	口縁部	-	-	-	良	内外橙褐色	白色粒、雲母	口縁部内外横ナデ。外面ナデ。C-5-1G
21	土師器	甕	口縁部	-	-	-	良	外暗褐色 内淡橙褐色	雲母、石英、白色粒	ロクロ使用。内外横ナデ。C-4-4G 口縁部つまみ上げ。複合口縁。
22	土師器	高盤	口縁部	-	-	-	良	外淡橙褐色 内黒茶褐色	雲母、白色粒、長石	内漆仕上げ黒色処理。外口縁部横ナデ。 体部ヘラ削り。内ヘラ磨き。E-4-1G
23	土師器	蓋		-	-	-	良	外橙褐色 内淡黒色	雲母、白色粒	外ナデ、粗いヘラ磨き。内炭素吸着の黒色処理。 ヘラ磨き。D-4-G

図12 南海道遺跡d地点(4)

[d地点遺物観察表(2)]

⑦ 大山遺跡f地点(図13.14.15 図版3.8)



(S=1:5000)

図13 大山遺跡f地点(1)

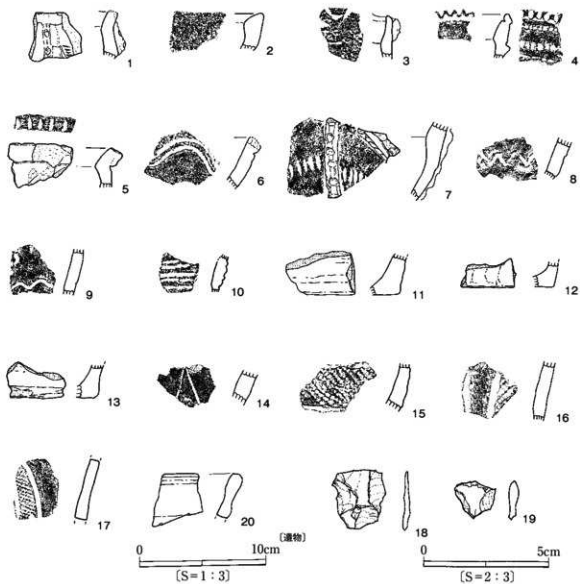
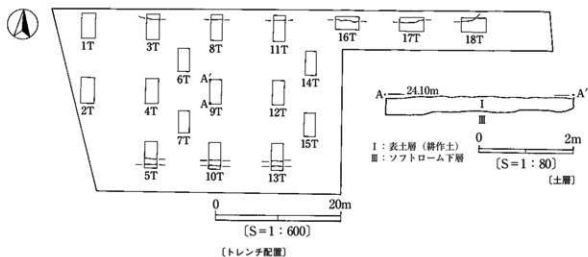


図14 大山遺跡f地点(2)

○調査概要

〔所在地〕 八千代市米本字大山2418-1の一部 〔調査原因〕 その他建物（グループホーム）

〔調査期間〕 令和5年6月19日～令和5年6月27日 〔調査面積〕 上層144㎡/1407.38㎡

〔調査種別〕 確認調査 〔遺構〕 近現代溝2条 〔遺物〕 縄文時代土器（中期前半・後期前半）

○調査所見

確認した遺構は近現代溝のみで、遺物は縄文時代土器（中期前半主体）、黒曜石剥片が出土した。今回の調査区は遺跡エリア内の東側部分で、出土遺物は縄文土器のみである。エリア全体では縄文時代前期～後期の遺構・遺物も確認されており、縄文時代全般での土地利用がうかがわれる。こうした中で、西側台地縁辺部では、弥生時代後期堅穴建物跡が比較的検出されていることから、弥生時代後期に新たな土地利用がなされたと想定されよう。

器種	器形	部位	計測値 (cm)			焼成	色調	胎土	調整・文様等
			器高	口径	底径				
1	縄文式土器	深鉢	口縁部	-	-	-	良	内外暗褐色	雲母、長石多含 隆縁に刻み、竹管による刺突文。 中期阿玉台1式。16T
2	縄文式土器	深鉢	口縁部	-	-	-	良	内外橙褐色	雲母多含長石 内面明瞭な後。中期阿玉台1式。16T
3	縄文式土器	深鉢	口縁部	-	-	-	良	外橙褐色 内暗褐色	雲母少量 口縁下に粘土棒2本を足付け履位の突起とする。中期阿玉台1式。18T
4	縄文式土器	深鉢	口縁部	-	-	-	良	内外赤茶褐色	白色粒、雲母少量 口唇部ヒダ状文。外面に有筋織文及び半截竹管による押しこ織文。中期阿玉台1式。14T
5	縄文式土器	深鉢	口縁部	-	-	-	良	内外赤茶褐色	雲母、長石多含 口唇上部に竹管、刺突文。内面に明瞭な後。中期阿玉台1式。11T
6	縄文式土器	深鉢	口縁部	-	-	-	良	外橙褐色 内淡黄褐色	雲母、長石多含 中期阿玉台1式。 隆帯下に有筋織の波状文を充填。14T
7	縄文式土器	深鉢	胴部	-	-	-	良	内外橙褐色	雲母、白色粒 中期阿玉台1式。隆縁に刻み目。隆縁下に有筋織施文。胴部に二枚貝の押し刺突文。11T
8	縄文式土器	深鉢	胴部	-	-	-	良	外暗褐色 内淡褐色	雲母少量、白色粒含 中期阿玉台1式。波状沈線。14T
9	縄文式土器	深鉢	胴部	-	-	-	良	外赤茶褐色 内暗褐色	雲母、長石多含 中期阿玉台1式。波状沈線。1T
10	縄文式土器	深鉢	胴部	-	-	-	良	内外淡橙褐色	雲母、長石多含 中期阿玉台1式。波列の角押文施文。1T
11	縄文式土器	深鉢	底部	-	-	-	良	内外茶褐色	雲母、長石、石英多含 中期阿玉台1式。立ち上がり角度をもって上がる。15T
12	縄文式土器	深鉢	底部	-	-	-	良	外赤茶褐色 内黒灰褐色	雲母少量、砂粒 中期阿玉台1式。立ち上がり角度をもって上がる。11T
13	縄文式土器	深鉢	底部	-	-	-	良	内外赤茶褐色	白色粒、砂粒 中期阿玉台1式。立ち上がり角度をもって上がる。3T
14	縄文式土器	深鉢	胴部	-	-	-	良	内外淡橙褐色	白色粒、雲母、砂粒 後期称名寺1式。鋭角の沈線施文。13T
15	縄文式土器	深鉢	胴部	-	-	-	良	内外茶褐色 一部黒斑	白色粒、雲母、砂粒 後期称名寺1式。沈線間に縄文施文。12T
16	縄文式土器	深鉢	胴部	-	-	-	良	内外茶褐色	白色粒、雲母、砂粒 後期称名寺1式。浅い沈線区画。縄文施文。15T
17	縄文式土器	深鉢	胴部	-	-	-	良	外茶褐色 内暗褐色	雲母、白色粒、赤色粒 後期称名寺Ⅱ式。沈線区画内縄文施文。11T
18	黒曜石剥片		縦長 2.3 横長 2.1	厚さ 1.5~2 mm					重さ 1.4g。12T
19	黒曜石剥片		縦長 1.5 横長 1.6	厚さ 2~3 mm					重さ 0.8g。14T
20	近世土器	焙烙	口縁部	-	-	-	良	内外暗茶褐色（煤付着）	雲母、白色粒、砂粒 内外ロクロナテ。17T

図15 大山遺跡 f 地点 (3)

〔遺物観察表〕

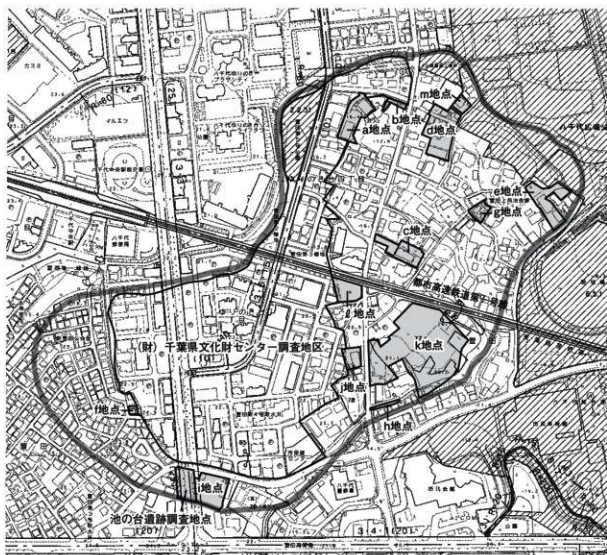


図16 白幡前遺跡 k.l.m地点

[S=1:5000]

⑧ 白幡前遺跡 k地点 (図16.17.19.20 図版3.8)

○調査概要

【所在地】八千代市萱田町369ほか 【調査原因】宅地造成

【調査期間】令和5年6月26日～令和5年7月19日 【調査面積】上層732㎡/10,076.73㎡

【調査種別】確認調査

【遺構】弥生時代後期竪穴建物跡1棟、古墳時代後期～奈良・平安時代竪穴建物跡15棟、掘立柱建物跡3棟、土坑9基

【遺物】縄文時代土器（中期初頭）、弥生時代土器（後期）、古墳時代土師器（後期）、奈良・平安時代土師器・須恵器、近世陶器（瀬戸）

○調査所見

東葉高速鉄道軌道建設に伴う千葉県文化財センター調査の上の台遺跡（現白幡前遺跡）の南隣接地部分に位置する。出土遺物からは、古墳時代後期土師器が一定量見られる。奈良・平安時代土師器・須恵器は比較的多い。センター調査成果では奈良平安時代主体であったが、古墳時代後期の遺構群が展開している可能性がある。

- 凡例
- 弥生時代 竪穴建物跡 1棟
 - 古墳～奈良・平安時代 竪穴建物跡 15棟
 - 奈良・平安時代 掘立柱建物跡 3棟
 - 奈良・平安時代 土坑 9棟
 - ◎ 近現代 溝

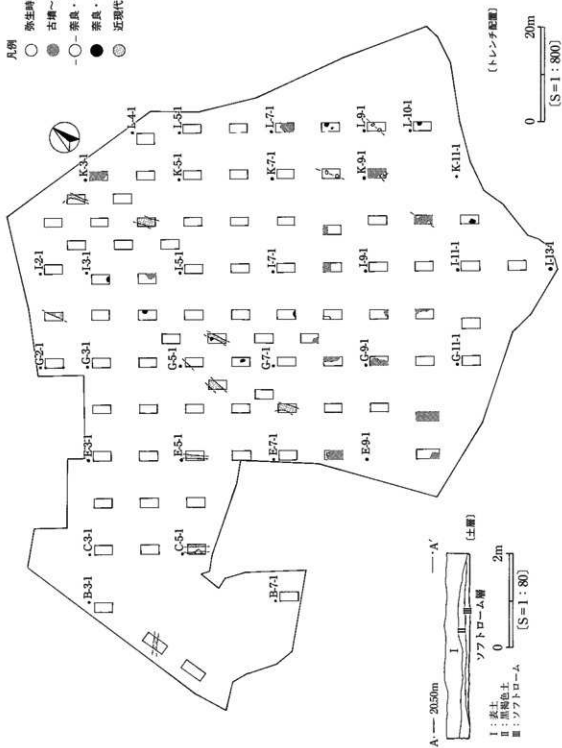


図17 白幡前遺跡K地点 (1)

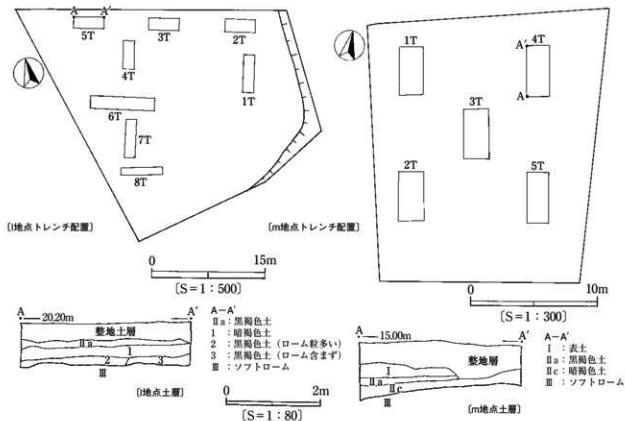


図18 白幡前遺跡1.m地点(1)

⑫ 白幡前遺跡1地点(図16.18 図版3)

○調査概要

【所在地】 八千代市萱田字白幡前2180-1他 【調査原因】 宅地造成

【調査期間】 令和5年11月7日～令和5年11月30日 【調査面積】 上層56.5mf/531.98mf

【調査種別】 確認調査 【遺構】 なし 【遺物】 なし

○調査所見

本遺跡範囲中央に位置する。区画整理事業に伴う県センターの成果では、台地西側の寺谷津に面した縁辺部と中央から南に入り込む緩い傾斜部に遺構が展開しており、本地点では確認されなかったと想定されよう。

⑬ 白幡前遺跡m地点(図16.18.21 図版4.9)

○調査概要

【所在地】 八千代市萱田字牛喰1815番地 【調査原因】 宅地造成

【調査期間】 令和6年1月5日～令和6年1月11日 【調査面積】 上層40mf/353.71mf

【調査種別】 確認調査

【遺構】 なし 【遺物】 縄文時代土器(前期前半)、奈良・平安時代須恵器、近世土器・陶器

○調査所見

南側隣接地のd地点においては、確認調査時点で縄文時代竪穴建物跡2棟、奈良平安時代の竪穴建物跡5棟等が確認され、継続した一部本調査では、縄文時代中期前半の竪穴建物跡1棟、古墳時代後期の竪穴建物跡2棟、古墳時代後期～奈良・平安時代のピット12基等が検出された。北側隣接の本地点では、やや標高が下がる部分であり遺構が展開しなかったと考えたい。

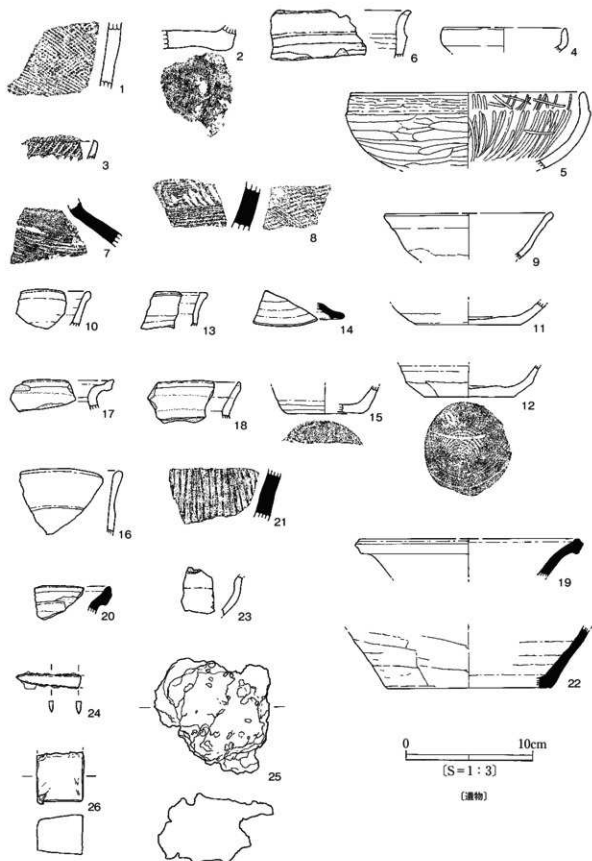


图19 白幡前遺跡 k 地点 (2)

器種	器形	部位	計測値 (cm)			焼成	色調	胎土	調整・文様等	
			器高	口径	底径					
1	縄文式土器	深鉢	胴部	-	-	-	良	内外赤褐色	雲母、長石	中期初頭。全面縄文系。横位の結束縄文。G-11-1G
2	縄文式土器	深鉢	底部	-	-	-	良	内外赤褐色	雲母、白色粒	形式不明。上げ底。Bトレ
3	弥生式土器	甕	複合口縁部	-	-	-	良	内外暗赤褐色	雲母、白色粒、赤色粒	口唇上部縄文押捺。外面付加条縄文施文。施文下部に刷目。H-8-1G
4	土師器	坏	口縁部	(2.0)	10.0	-	良	内外淡赤褐色	雲母、白色粒	口縁部横ナデ。E-8-1G
5	土師器	埴	口縁～体部2/3	(6.0)	18.4	-	良	内外赤褐色～黒茶色	白色粒、雲母粒	口縁部外横位ヘラ磨き。内縦位ヘラ磨き後粗いヘラ磨き。体部外横位ヘラ磨き。内縦位ヘラ磨き。H-9-1G
6	土師器	甕	口縁部	-	-	-	良	内外赤褐色	雲母、白色粒	口縁部横ナデ。外面横位ヘラ磨き。内面ナデ。E-8-1G
7	須恵器	広口甕	胴部	-	-	-	良	内外深灰茶色	雲母多含、長石混入	ロクロ使用。外面横位叩き目文。内面ロクロナデ。G-5-4G
8	須恵器	甕	胴部	-	-	-	良	内外深青灰色	ち密、長石混入	ロクロ使用。外面平行叩き目文を交差し格子目文とする。内面木口状工具によるナデ、青海波文当て具か。C-5-1G
9	土師器	坏	口縁部	(3.6)	13.0	-	良	内外橙褐色	雲母、砂粒	ロクロ使用。内外ロクロナデ。外体部下位回転ヘラ磨き。H-10-1G
10	土師器	坏	口縁部	-	-	-	良	内外淡橙褐色	赤色粒、雲母	ロクロ使用。内外ロクロナデ。I-4-4G
11	土師器	坏	底部	(1.8)	-	8.2	良	内外淡橙褐色	雲母、石英、赤色粒、砂粒	ロクロ使用。体部下層回転ヘラ磨き。底部切り離し不明。ヘラ磨き調整。H-10-1G
12	土師器	坏	底部	(2.5)	-	7.0	良	内外赤褐色	雲母、白色粒	ロクロ使用。体部下層回転ヘラ磨き。底部回転赤切り離し後縦線回転ヘラ磨き調整。E-8-1G
13	土師器	埴小	口縁部	-	-	-	良	内外淡橙褐色	雲母、白色粒、砂粒	ロクロ使用。口唇端部平坦。I-4-4G
14	須恵器	蓋	端部片	-	-	-	良	内外淡灰色 断面淡褐色	雲母多含、白色粒、砂粒	ロクロ使用。内面比較的明瞭なかえり。天井部外面回転ヘラ磨き。J-10-1G
15	土師器	坏	底部	(2.1)	-	6.1	良	内外暗褐色	雲母、白色粒、赤色粒、砂粒	底部切り離し回転赤切り。体部下層2段の回転ヘラ磨き。内ロクロナデ。H-10-1G
16	土師器	甕	口縁部	-	-	-	良	内外赤褐色	雲母、白色粒、砂粒	口縁部内外横ナデ。胴部外面横位ヘラ磨きか。E-8-1G
17	土師器	甕	口縁部	-	-	-	良	内外赤褐色	長石、雲母多含	ロクロ使用。口唇部つまみ上げ。常陸型甕。H-10-1G
18	土師器	甕	口縁部	-	-	-	良	内外淡橙褐色	雲母、白色粒、砂粒	ロクロ使用。内外横ナデ。H-10-1G
19	須恵器	甕	口縁部	(3.0)	18.0	-	良	内外灰色	雲母、長石、石英、砂粒	複合口縁。ロクロ使用。内外ロクロナデ。G-9-1G
20	須恵器	甕	口縁部	-	-	-	良	内外暗赤褐色 (煤附着)	雲母、白色粒、赤色粒、砂粒	複合口縁。ロクロ使用。内外ロクロナデ。G-5-4G
21	須恵器	甕	胴部	-	-	-	良	外灰褐色 内淡橙褐色	雲母、白色粒	外縦位平行叩き目文。内ロクロナデ。E-8-1G
22	須恵器	甕	底部	-	-	-	良	内外赤褐色	雲母、白色粒、砂粒	外胴部下位横位ヘラナデ。内ロクロナデ。H-10-1G
23	瀬戸	天目茶碗	胴部	-	-	-	良	内外黒茶色 (鉄輪)	ち密	ロクロナデ。18Cか? H-2-1G
24	鉄製品	刀子	刀部中位～基部欠損	横長 (5.0)	縦幅 0.9	重さ 6.4g				H-10-1G
25	鉄滓	椀形滓		全長 9.1	厚さ 5.3					重さ395.8g。上面比較的平坦。下面凹面。磁力なし。H-10-1G
26	石製品	砥石		遺存長 (3.5)	横長 3.7	厚さ 3.2	重さ 78.3g			西面及び下面で磨られる。凝灰岩。Aトレ

[k 地点遺物観察表]

器種	器形	部位	計測値 (cm)			焼成	色調	胎土	調整・文様等	
			器高	口径	底径					
1	縄文式土器	深鉢	胴部	-	-	-	良	外橙褐色 内淡褐色	小石粒、雲母	前期四山1式。縄文施文。含セシイ。4T
2	縄文式土器	深鉢	胴部	-	-	-	良	内外淡橙褐色	雲母、白色粒	主文様付文+竹管文で地紋は環付施文。含セシイ。前期四山1式。3T
3	縄文式土器	深鉢	胴部	-	-	-	良	内外橙褐色	雲母、白色粒	前期四山1式。異種原体の結束施文。含セシイ。4T
4	縄文式土器	深鉢	胴部	-	-	-	良	外橙褐色 内淡褐色	雲母、白色粒	前期四山1式。結束縄文。含セシイ。3T
5	須恵器	坏	底部	(1.1)	-	8.0	良	内外灰白色	雲母多含、白色粒、砂粒	ロクロ使用。底部切り離し不明。ヘラによる再調整。5T
6	近世土器	不明	底部	-	-	-	良	内外暗灰色	雲母多含、石英	瓦質。内側に円形状の焼成前切り込みをもつ。4T
7	近世陶器	常滑焼 甕	胴部	-	-	-	良	内外赤褐色～茶色	長石、石英、ち密	ロクロ使用。ロクロナデ。5T

図20 白幡前遺跡 k 地点 (3)

[m 地点遺物観察表]

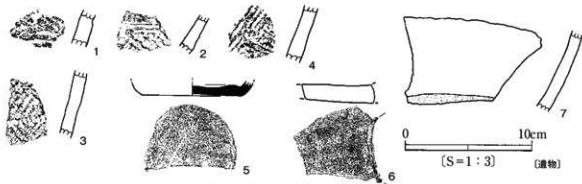


図21 白幡前遺跡m地点 (1)

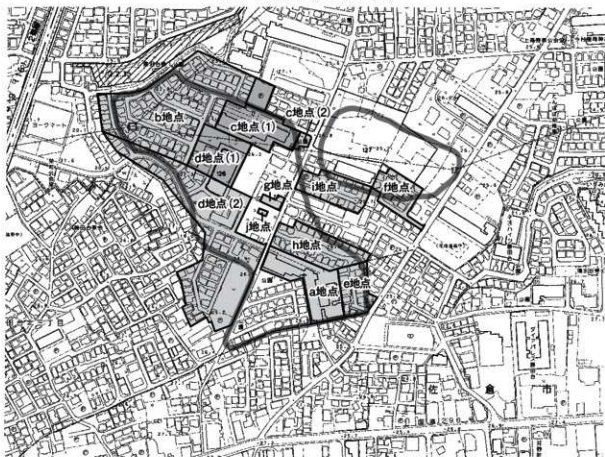


図22 新林遺跡j地点 (1)

(S:1:5000)

⑨ 新林遺跡j地点 (図22.23 図版4.9)

○調査概要

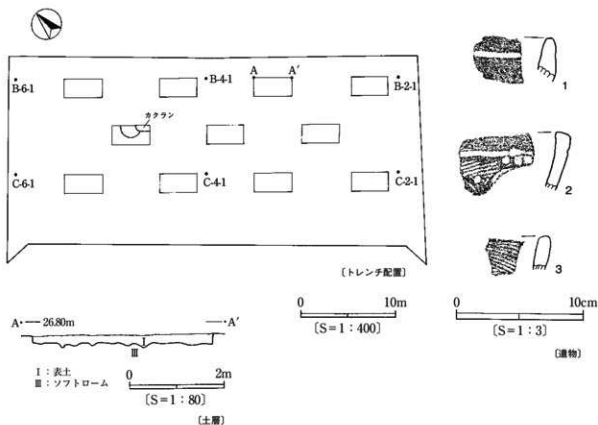
【所在地】 八千代市上高野1196-2の一部, 1196-3 【調査原因】 宅地造成

【調査期間】 令和5年7月31日～令和5年8月7日 【調査面積】 上層88m²/846m²

【調査種別】 確認調査 【遺構】 縄文時代 陥穴1基 【遺物】 縄文時代土器 (後期)

○調査所見

本遺跡エリアはこれまでの成果から、縄文時代前期後半～中期前半を主体とした集落跡に位置づけられている。陥穴は、今回の成果を含めても2基のみである。2基とも台地縁辺部に検出された。集落とは異なる同時代の土地利用と想定されよう。なお、本陥穴は本調査が実施され、2024 (R6) 年2月に報告書が刊行された。参照されたい。

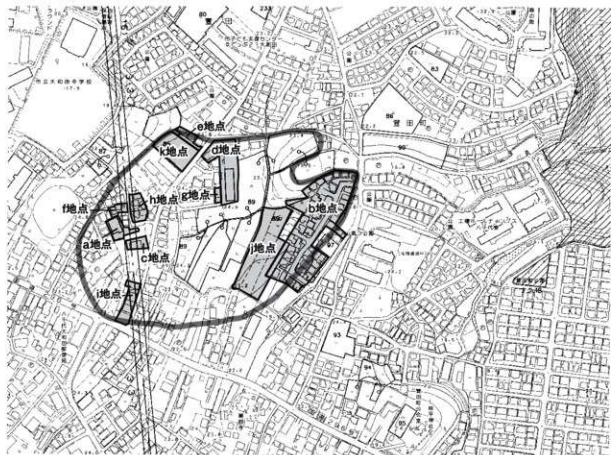


器種	器形	部位	計測値 (cm)			焼成	色調	胎土	調整・文様等
			器高	口径	底径				
1	縄文式土器	深鉢	口縁部	-	-	-	良	内外淡橙褐色 雲母, 白色粒, 砂粒	後期称名寺1式。口縁外面下に沈線。表採
2	縄文式土器	深鉢	口縁部	-	-	-	良	内外橙褐色 白色粒, 雲母, 砂粒	後期称名寺1式。沈線区画内に縄文を充填する。表採
3	縄文式土器	深鉢	口縁部	-	-	-	良	外暗褐色 内茶褐色 白色粒, 雲母, 砂粒	後期称名寺1式。口縁外面下に縄文。B-5-1

図23 新林遺跡j地点(2)

〔遺物観察表〕

⑩ 北裏畑遺跡 k 地点 (図24 図版 4)



(S=1:5000)

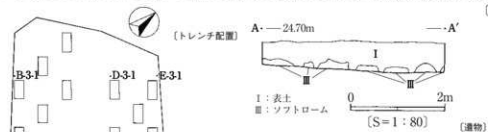


図24 北裏畑遺跡 k 地点

○調査概要

【所在地】 八千代市萱田字萱田道798番3

【調査原因】 宅地造成

【調査期間】 令和5年8月22日～令和5年9月4日

【調査面積】 上層184㎡/1625.46㎡

【調査種別】 確認調査 【遺構】 なし

【遺物】 奈良・平安時代土師器片

○調査所見

包蔵地範囲内の調査では、b、d、j 地点において縄文時代陥穴が各1基ずつで、その他に明確な遺構は検出されていない。居住空間としての利用は希薄である。遺物は奈良・平安時代土師器壘片、坏片が出土した。

⑪ 境堀遺跡b地点・神野群集塚 (図25.26.27 図版 5.10)

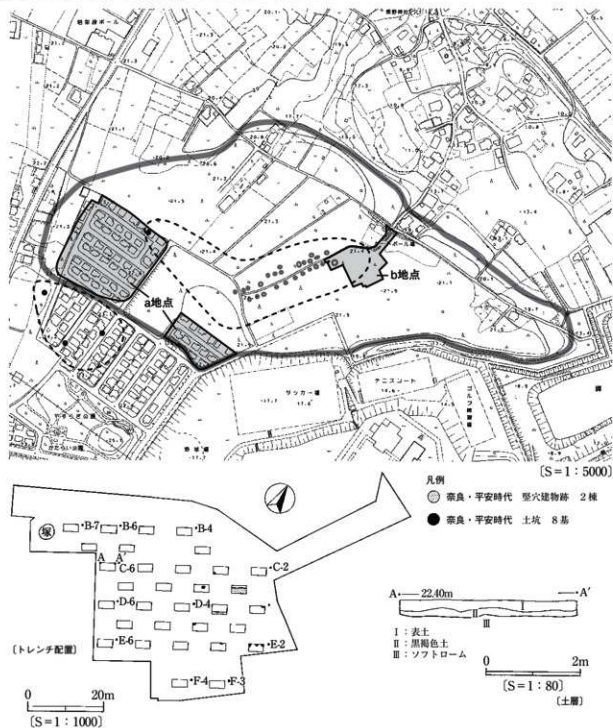


図25 境堀遺跡b地点・神野群集塚 (1)

○調査概要

〔所在地〕 八千代市神野字境堀1068ほか 〔調査原因〕 宅地造成

〔調査期間〕 令和5年10月19日～令和5年10月31日 〔調査面積〕 上層258㎡/2768.48㎡

〔調査種別〕 確認調査 〔遺構〕 奈良・平安時代竪穴建物跡2棟、土坑8基、中・近世塚1基

〔遺物〕 縄文時代土器(前中期)、奈良・平安時代土師器・須恵器

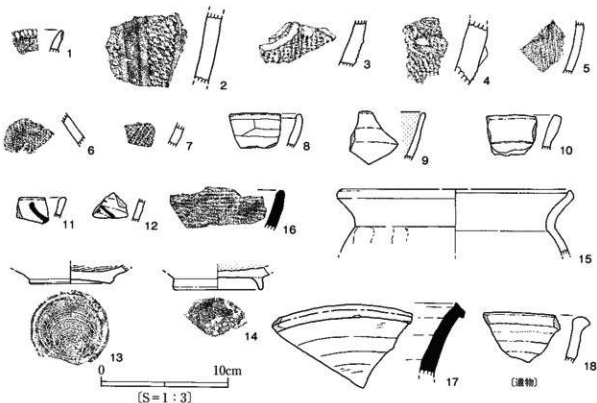


図26 境堀遺跡b地点・神野群集塚(2)

○調査所見

遺跡内西側縁辺部の八千代カルチャータウン開発事業に係る調査においては、南側台地縁辺部から緩傾斜面にて縄文時代早期前半～晩期前半の包含層が検出された。続く弥生時代後期前半から後半では堅穴建物跡22棟、古墳時代前期堅穴建物跡10棟・後期堅穴建物跡1棟で、奈良・平安時代では堅穴建物跡20棟・掘立柱建物跡18棟で、時期的には8世紀後半～9世紀前半に集中する。塚は、黒丸で図示したとおり4基が調査されている。

今回調査地点においても、同様の遺構・遺物が確認されており、同一台地上での土地利用に変化は見られないようである。なお、塚は2023(R5)年12月に本調査が実施された。

器種	器形	部位	計測値 (cm)			焼成	色調	胎土	調整・文様等	
			器高	口径	底径					
1	縄文式土器	深鉢	口縁部	-	-	-	良	内外淡褐色	雲母、砂粒	前期興津Ⅰ式。口唇部巻貝押地。表掻
2	縄文式土器	深鉢	胴部	-	-	-	良	外赤茶褐色 内暗褐色	雲母、小石粒	中期加曾利EⅡ式。磨消懸垂文。 その間を縄文施文する。E-5-1G
3	縄文式土器	深鉢	胴部	-	-	-	良	内外茶褐色	雲母、白色粒、 小石粒	中期加曾利EⅡ式。沈積区外に縄文を施文する。D-2
4	縄文式土器	深鉢	胴部	-	-	-	良	内外淡橙褐色	雲母、白色粒、 小石粒	中期加曾利EⅡ式。連弧文土器。B-5-1
5	弥生式土器	甕	胴部	-	-	-	良	内外暗褐色	白色粒、雲母	付加条縄文施文。C-2-4G
6	弥生式土器	甕	胴部	-	-	-	良	内外淡橙褐色	石英、雲母、 長石	付加条縄文施文。C-2-4G
7	弥生式土器	甕	胴部	-	-	-	良	内外暗褐色	白色粒、砂粒	付加条縄文施文。C-2
8	土師器	坏	口縁部	-	-	-	良	外茶褐色 内赤茶褐色	雲母、白色粒	外横ナ字鋭い稜の下位横位ヘラ削り。内ナデ。 D-2

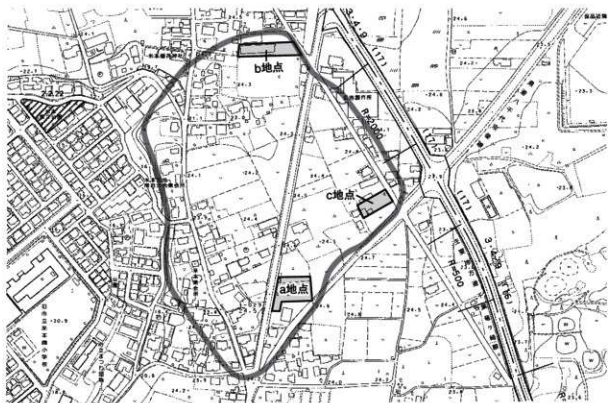
〔遺物観察表(1)〕

器種	器形	部位	計測値 (cm)			焼成	色調	胎土	調整・文様等	
			器高	口径	底径					
9	土師器	埴	口縁部	-	-	-	良	外茶褐色 内漆黒色 (内黒)	雲母, 白色粒	ロクロ使用。内面炭素吸着による黒色処理。C-2
10	土師器	甕	口縁部	-	-	-	良	内外淡橙褐色	白色粒, 雲母	ロクロ使用。内外ロクロナデ。表採
11	土師器	坏	口縁部	-	-	-	良	内外淡橙褐色	雲母	ロクロ使用。ロクロナデ。圖書有り「文」か? 表採。B-5-1
12	土師器	坏	体部	-	-	-	良	内外橙褐色	白色粒, 雲母	ロクロ使用。ロクロナデ。圖書有り「文」か? 表採
13	土師器	皿	底部全周	(1.5)	-	6.4	良	内外淡橙褐色	雲母, 白色粒, 赤色粒	ロクロ使用。外ロクロナデ。内へら磨き。底部回転系切り離し後。浅い高台貼り付け。表採
14	土師器	高台付皿	底部	(1.8)	-	7.0	良	外橙褐色 内暗茶褐色	雲母, 白色粒	ロクロ使用。底部切り離しは回転系切り離し後。高台貼り付け。内面はへら磨き。漆仕上げか? 表採
15	土師器	甕	口縁部	(5.0)	18.0	-	極めて良好	内外暗茶褐色	雲母, 白色粒	ロクロ使用。内外ロクロナデ。胴部削いへらナデ。E-2
16	須恵器	鉢小	口縁部	-	-	-	良	内外暗青灰色	白色粒, 石英, 雲母	ロクロ使用。外平行明き目文。内ロクロナデ。D-4
17	須恵器	甕	口縁部	-	-	-	極めて良好	外青灰色 内淡黄灰色	長石 ち密	硬質。ロクロ使用。内外ロクロナデ。D-2
18	近世陶器	常滑焼甕	口縁部	-	-	-	良	内外赤茶色	ち密	ロクロ使用。内外ロクロナデ。D-5-4

図27 境堀遺跡b地点・神野群集塚 (3)

(遺物観察表 (2))

⑬ 下宿東遺跡c地点 (図28.29 図版5.10)



(S=1:5000)

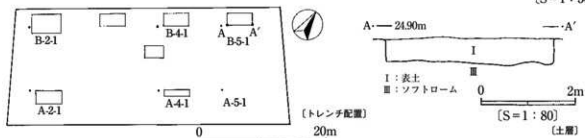
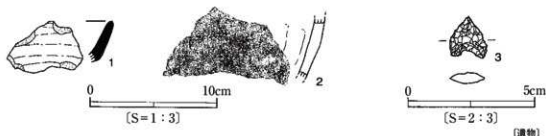


図28 下宿東遺跡c地点 (1)

(S=1:600)



○調査概要

【所在地】 八千代市米本字下宿東2538-22 【調査原因】 寄宿舍建設

【調査期間】 令和5年11月22日～令和5年11月30日 【調査面積】 上層55.5㎡/784.22㎡

【調査種別】 確認調査 【遺構】 なし 【遺物】 縄文時代石器、奈良・平安時代土師器・須恵器

○調査所見

これまでに2地点の確認調査を実施し、中世土坑1基を検出している。遺物では縄文土器や奈良・平安時代土師器・須恵器が出土している。今回の出土遺物も同様であり、エリア内に居住空間としての土地利用が想定されよう。

器種	器形	部位	計測値 (cm)			焼成	色調	胎土	調整・文様等
			器高	口径	底径				
1	須恵器	坏	口縁～体部下位	-	-	-	良	内外淡灰色 白色靱、雲母少量	ロクロ使用。丸底状の底部をもつ。B-2-1
2	土師器	甕	口縁部	-	-	-	良	内外淡橙褐色 雲母、長石、石英	外製部下半細いミガキ状削り。内ヘラナデ。B-2-1
3	石製品	石鏃	縦長	横長	厚さ				黒曜石製。重さ0.6g。片面整形B-2-1

図29 下宿東遺跡c地点(2)

〔遺物観察表〕

⑮ 門原遺跡c地点 (図30 図版5)

○調査概要

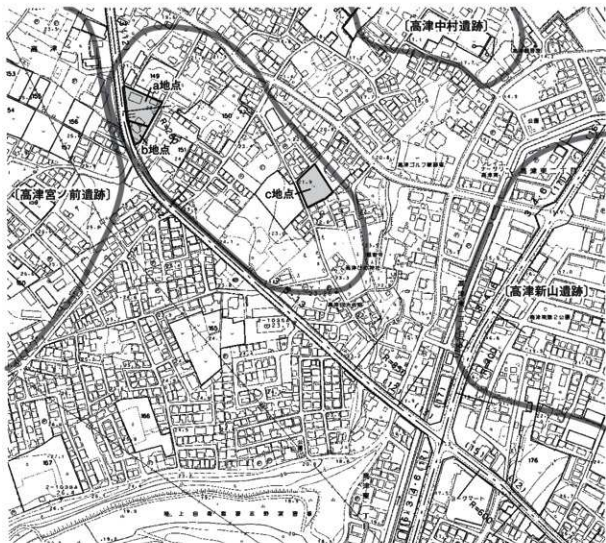
【所在地】 八千代市高津字中村524番 【調査原因】 宅地造成

【調査期間】 令和6年1月5日～令和6年1月19日 【調査面積】 上層132㎡/1498.61㎡

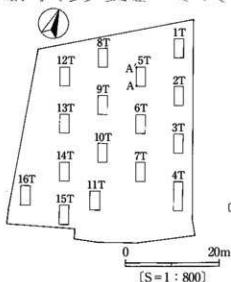
【調査種別】 確認調査 【遺構】 なし 【遺物】 なし

○調査所見

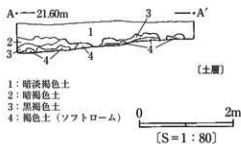
遺構、遺物とも確認されなかった。奈良・平安時代遺物包蔵地とされているが、今回も明確な土地利用の把握はできなかった。同一支台で西側隣接地の宮ノ前遺跡と北東側の中村遺跡ともに同様な傾向を示している。本遺跡の東側の谷津を隔てた高津新山遺跡は、古墳時代後期～奈良・平安時代の集落跡として150棟あまりの堅穴建物跡が検出されているが、高津新山遺跡を支える後背地として、3遺跡が機能したのではないかと考えている。



(S:1:5000)



(S:1:800)



- 1: 暗赤褐色土
- 2: 暗褐色土
- 3: 黒褐色土
- 4: 褐色土(ソフトローム)

(S:1:80)

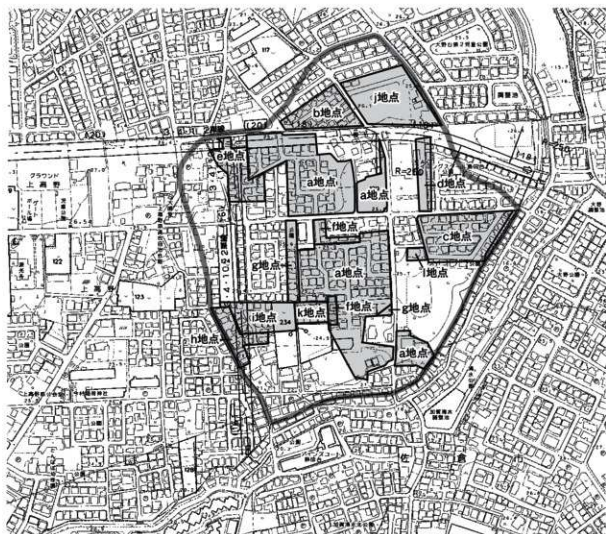
図30 門原遺跡c地点

⑰ 上谷津台南遺跡1地点(図31 図版6)

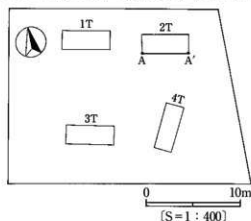
○調査概要

【所在地】 八千代市上高野字上谷津台1054番7 【調査原因】 宅地造成

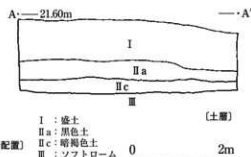
【調査期間】 令和6年2月26日～令和6年2月26日 【調査面積】 上層40㎡/427㎡



(S : 1 : 5000)



(S : 1 : 400)



I : 盛土
IIa : 黒色土
IIc : 暗褐色土
III : ソフトローム (土層)

(トレンチ配置)

(S : 1 : 80)

図31 上谷津台南遺跡 I 地点

〔調査種別〕 確認調査 〔遺構〕 なし 〔遺物〕 なし

○調査所見

遺構、遺物は確認できなかった。これまでに11地点で調査を実施しているが、明確な遺構は陥穴2基のみで、他に時期不詳土坑が4基である。遺物では縄文時代土器（早後期）・磨製石斧、奈良・平安時代土師器が出土している。土地利用としては、狩猟や山林管理としての性格が強いのもかもしれない。

⑱ 菅地ノ台遺跡g地点 (図32.33.34 図版6.10)



図32 菅地ノ台遺跡g地点 (1)

○調査概要

〔所在地〕 八千代市萱田字菅地台439番1 〔調査原因〕 宅地造成

〔調査期間〕 令和6年3月6日～令和6年3月11日 〔調査面積〕 上層102㎡/1079.64㎡

〔調査種別〕 確認調査

〔遺構〕 縄文時代ピット4基、古墳時代竪穴建物跡1棟、奈良・平安時代竪穴建物跡1棟

〔遺物〕 縄文時代土器（早中期）、弥生時代土器（後期）、奈良・平安時代土師器・須恵器

○調査所見

これまでに、遺跡エリアの中央から南側での調査事例が主体である。結果として、奈良・平安時代の竪

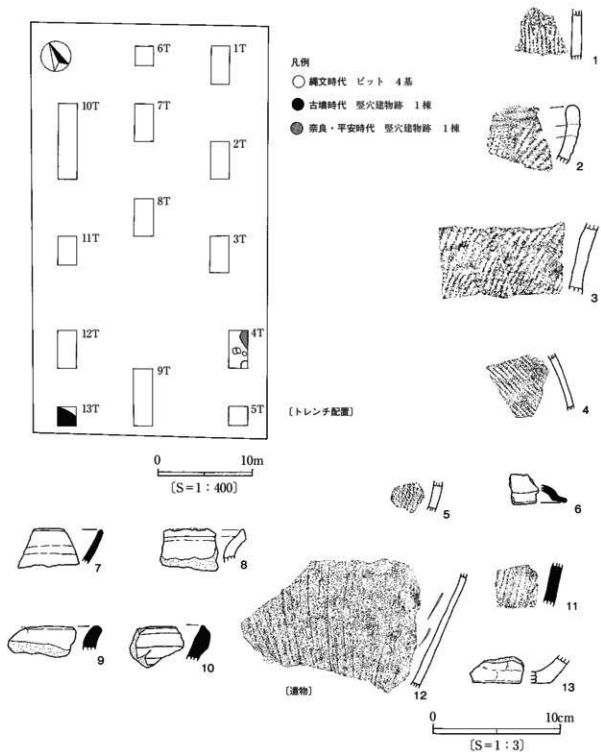


図33 菅地ノ台遺跡g地点(2)

穴建物跡・掘立柱建物跡を中心に、縄文時代土坑や弥生時代後期・古墳時代中期の竪穴建物跡が検出されている。遺物では縄文時代(後期)土器、弥生時代(後期)土器、古墳時代(中期)石製模造品、奈良・平安時代土師器・須恵器が出土した。

今回の調査では、ほぼこれまでの資料と同様な成果が蓄積された。

器種	器形	部位	計測値 (cm)			焼成	色調	胎土	調整・文様等	
			器高	口径	底径					
1	縄文式土器	深鉢	胴部	-	-	-	良	内外淡橙褐色	白色粒、雲母、砂粒	早期弥生文系并草式。単節縄文。6T
2	縄文式土器	深鉢	口縁部	-	-	-	良	内外暗茶褐色	白色粒、砂粒、小石粒、雲母	2・3同一個体。中期加曾利E式。縄文施文。4T
3	縄文式土器	深鉢	胴部	-	-	-	良	内外暗茶褐色	白色粒、砂粒、小石粒、雲母	2・3同一個体。中期加曾利E式。縄文施文。4T
4	弥生式土器	甕	胴部	-	-	-	良	外淡橙褐色 内暗褐色	白色粒、雲母	弥生文施文。内面はナデ。2T
5	弥生式土器	甕	胴部	-	-	-	良	内外淡橙褐色	白色粒、雲母	付加条縄文施文。表採
6	須恵器	蓋	口縁部	-	-	-	良	内外淡青灰色	石英、雲母、長石	ロクロ使用。内外ロクロナデ。内面に比較的明確なかえりを有する。表採
7	須恵器	坏	口縁部	-	-	-	良	内外淡青灰色	雲母、長石	ロクロ使用。内外ロクロナデ。4T
8	土師器	甕	口縁部	-	-	-	良	内外橙褐色	雲母、石英、長石	ロクロ使用。内外ロクロナデ。3T
9	須恵器	甕	口縁部	-	-	-	良	内外灰色	ち密	ロクロ使用。ロクロナデ。表採
10	須恵器	甕	口縁部	-	-	-	良	内外淡褐色	雲母、白色粒	ロクロ使用。内外ロクロナデ。表採
11	須恵器	甕	胴部	-	-	-	良	内外茶褐色	雲母、白色粒、砂粒	ロクロ使用。外平行明き目文。内ナデ。表採
12	土師器	甕	胴下半部	-	-	-	良	外暗褐色 内淡橙褐色	石英、雲母、長石	外縦位の細いミガキ状ヘラ削り。内ヘラナデ。4T。常陸型甕
13	土師器	小型甕	底部	-	-	-	良	外暗褐色 内淡茶褐色	雲母、白色粒、砂粒	底径約7cm程度。外横位ヘラ削り。内ナデ。4T

図34 菅地ノ台遺跡g地点 (3)

〔遺物観察表〕

⑨ 道地遺跡 | 地点 (図35 図版6)

○ 調査概要

〔所在地〕 八千代市平戸字西ノ上281番1他 〔調査原因〕 個人住宅・店舗

〔調査期間〕 令和6年3月18日～令和6年3月25日 〔調査面積〕 上層76㎡/715.5㎡

〔調査種別〕 確認調査 〔遺構〕 なし 〔遺物〕 なし

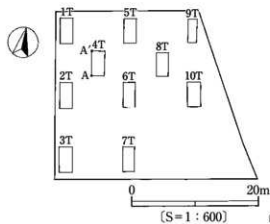
○ 調査所見

道路建設事業に伴う千葉県文化財センターの調査は、遺跡エリア内中央を、南北に縦断して実施された。成果は、弥生時代後期前半から末葉を経て古墳時代初頭～前期後半前の比較的限定された時期の堅穴建物跡が79軒検出された。市による農道舗装にかかる調査は、県センター調査の東側から台地縁辺部で実施され、弥生時代後期～古墳時代中期の堅穴建物跡が検出されており、台地上での同様な土地利用が伺える。市による他地点の調査においても、弥生時代後期～古墳時代前期を中心とした堅穴建物跡が確認されている。遺構が確認されなかった地点は、空白部分であり、今回の地点はこれに該当するものと思われる。

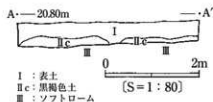
本遺跡エリアでのその他の遺構は、e地点で縄文時代炉跡1基・土坑6基、i地点で縄文時代中期堅穴建物跡1棟が検出ないし確認されている。遺物では、縄文時代土器（前中後期）・石器が出土している。



(S=1:5000)



(S=1:600) (トレンチ配置)



I : 表土
IIc : 黒褐色土
III : ソフトローム

(土層)

図35 道地遺跡I地点



高津宮ノ前遺跡 c 地点トレンチ完掘状況



高津宮ノ前遺跡 c 地点完掘全景



高津宮ノ前遺跡 d 地点セクション



高津宮ノ前遺跡 d 地点完掘全景



井戸向遺跡 e 地点調査風景



井戸向遺跡 e 地点セクション



堀久保遺跡 a 地点トレンチ完掘状況



堀久保遺跡 a 地点完掘全景

図版2



蛸池台遺跡 b地点セクション



蛸池台遺跡 b地点完掘全景



蛸池台遺跡 b地点トレンチ完掘状況①



蛸池台遺跡 b地点トレンチ完掘状況②



南海道遺跡 d地点発掘状況



南海道遺跡 d地点トレンチ完掘状況



南海道遺跡 d地点完掘全景



南海道遺跡 e地点セクション



大山遺跡 f 地点トレンチ完掘状況



大山遺跡 f 地点完掘全景



白幡前遺跡 k 地点セクション



白幡前遺跡 k 地点トレンチ完掘状況①



白幡前遺跡 k 地点トレンチ完掘状況②



白幡前遺跡 k 地点完掘全景



白幡前遺跡 l 地点セクション



白幡前遺跡 l 地点トレンチ完掘状況

図版 4



白幡前遺跡 m 地点セクション



白幡前遺跡 m 地点発掘全景



新林遺跡 j 地点発掘調査風景



新林遺跡 j 地点セクション



新林遺跡 j 地点トレンチ発掘状況



新林遺跡 j 地点発掘全景



北裏畑遺跡 k 地点トレンチ発掘状況



北裏畑遺跡 k 地点発掘全景



境堀遺跡 b 地点セクション



境堀遺跡 b 地点トレンチ完掘状況①



境堀遺跡 b 地点トレンチ完掘状況②



境堀遺跡 b 地点完掘全景



下宿東遺跡 c 地点セクション



下宿東遺跡 c 地点トレンチ完掘状況



門原遺跡 c 地点セクション



門原遺跡 c 地点トレンチ完掘状況

図版6



上谷津台南遺跡 | 地点セクション



上谷津台南遺跡 | 地点トレンチ完掘状況



菅地ノ台遺跡 g 地点セクション



菅地ノ台遺跡 g 地点トレンチ完掘状況①



菅地ノ台遺跡 g 地点トレンチ完掘状況②



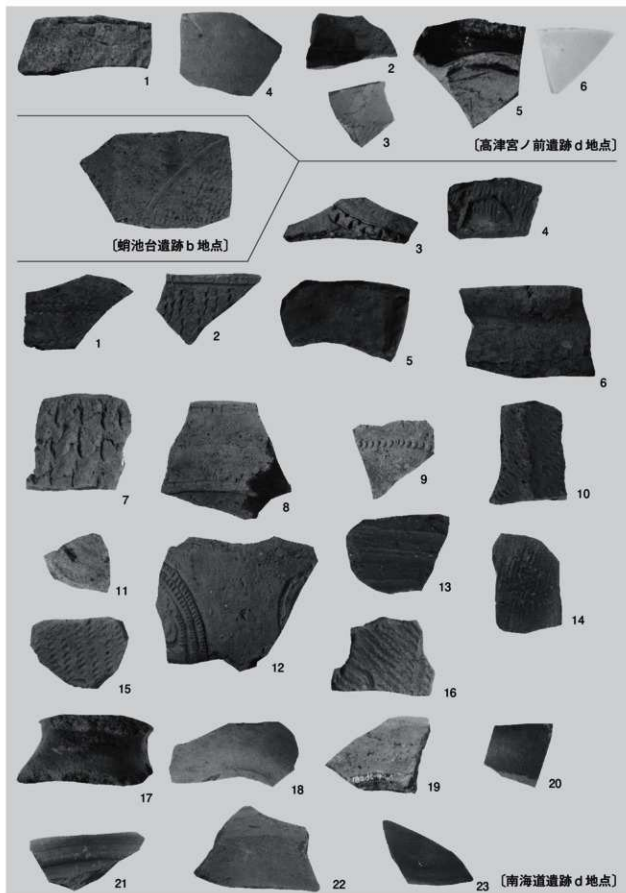
菅地ノ台遺跡 g 地点全景



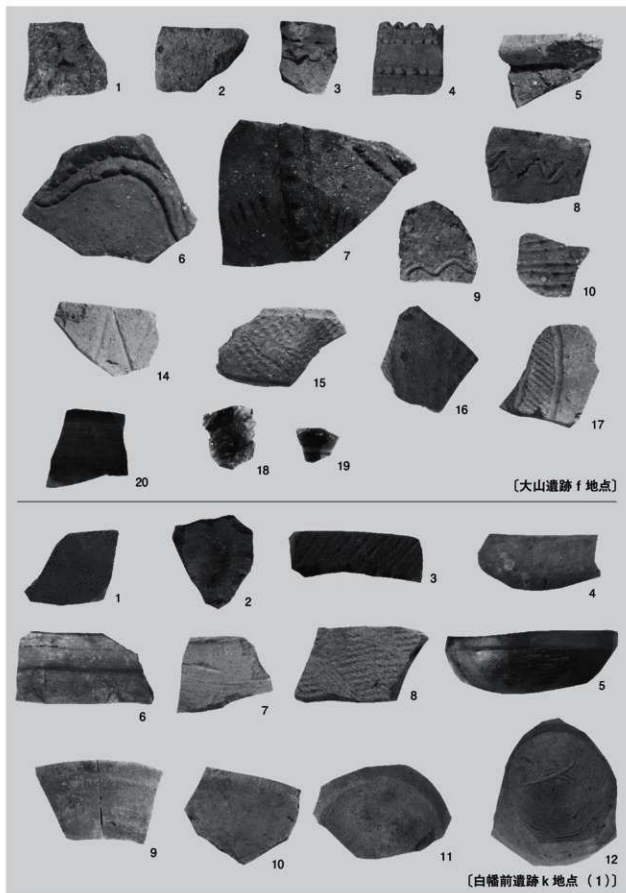
道地遺跡 | 地点セクション

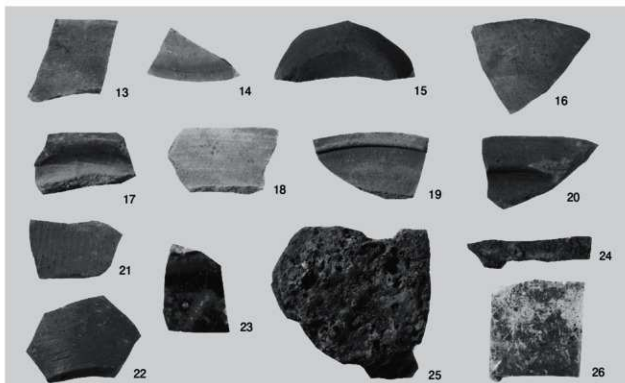


道地遺跡 | 地点トレンチ完掘状況

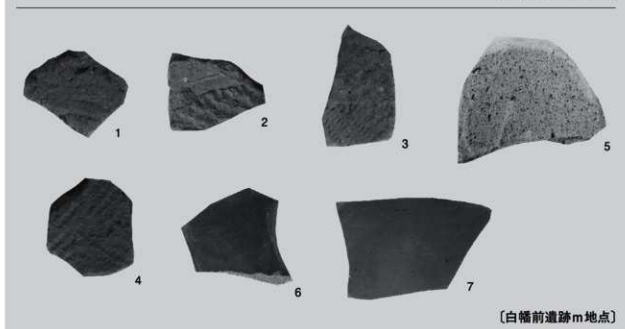


図版8





〔白幡前遺跡 k 地点 (2)〕

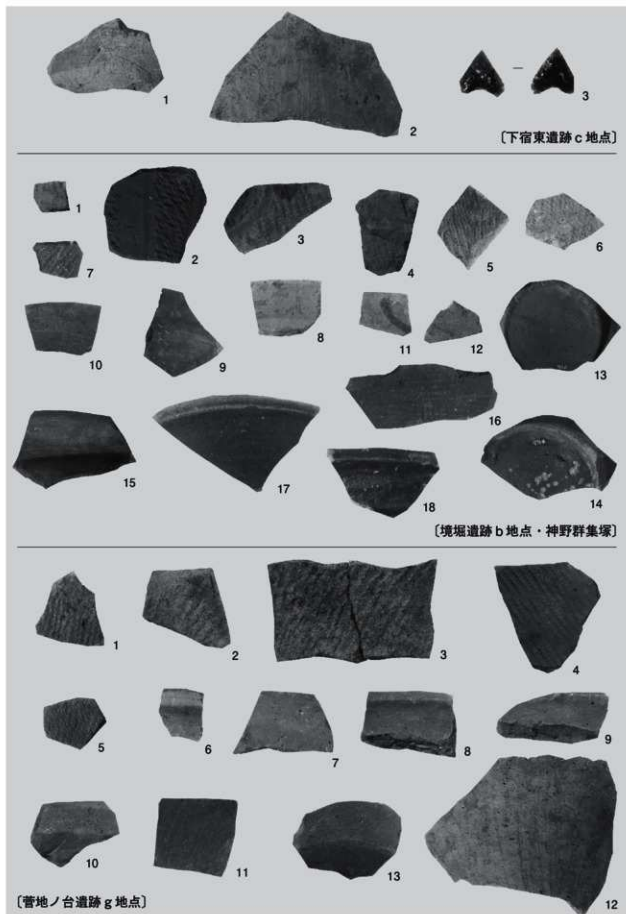


〔白幡前遺跡 m 地点〕



〔新林遺跡 j 地点〕

図版10



報告書抄録

ふりがな	ちばけんやちよし しないいせきはくつちようさほうこくしょ れいいわろくねんど
書名	千葉県八千代市 市内道路発掘調査報告書 令和6年度
副書名	高津宮ノ前道路c地点、井戸向道路e地点、堀久保道路a地点、蛸池台道路b地点、南海道道路d地点、高津宮ノ前道路d地点、大山道路f地点、白幡前道路k地点、新林道路j地点、北裏畑道路k地点、塚堀道路b地点・神野群集塚、白幡前道路l地点、下宿東道路c地点、白幡前道路m地点、門原道路c地点、南海道道路c地点、上谷津台南道路l地点、菅地ノ台道路g地点、道地道路l地点
編集者名	森竜哉 向後喜紀
編集機関	八千代市教育委員会
所在地	〒276-0045 千葉県八千代市大和田138-2 Tel047-483-1151(代表)・047-481-0304(直通)
発行年月日	西暦2024(令和6)年11月12日

ふりがな 所収道路	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積(m ²) 掘削/対象	調査原因
		市町村	道路 番号					
高津宮ノ前道路c地点	八千代市高津字大門 474番1,2	12221	235	35度 42分 57秒	140度 5分 1秒	20230419～20230425	上層 160/1507	宅地造成
井戸向道路e地点	八千代市萱田字寺ノ台 1498番2地	12221	284	35度 43分 53秒	140度 24分 23秒	20230509～20230518	上層 94/962.03	宅地造成
堀久保道路a地点	八千代市蛸池台字西堀久保 1289番38	12221	39	35度 45分 33秒	140度 5分 20秒	20230515～20230519	上層 96/969.81	福祉施設 建設
蛸池台道路b地点	八千代市米本字原内2167-19	12221	112	35度 45分 13秒	140度 6分 43秒	20230530～20230607	上層 148/1244.39	集合住宅
南海道道路d地点	八千代市萱田748番2	12221	182	35度 44分 8秒	140度 6分 31秒	20230529～20230608	上層 188/1817.31	宅地造成
高津宮ノ前道路d地点	八千代市高津字大門455	12221	235	35度 42分 51秒	140度 4分 56秒	20230605～20230615	上層 46.6/426	その他建物 (販売住 宅)
大山道路f地点	八千代市米本字大山2418-1 の一部	12221	103	35度 45分 23秒	140度 7分 8秒	20230619～20230627	上層 144/1407.38	その他建物 (グループ ホーム)
白幡前道路k地点	八千代市萱田町369ほか	12221	185	35度 43分 34秒	140度 6分 29秒	20230626～20230719	上層 732/10,076.73	宅地造成
新林道路j地点	八千代市上高野 1196-2の一部、1196-3	12221	233	35度 43分 11秒	140度 7分 50秒	20230731～20230807	上層 88/846	宅地造成
北裏畑道路k地点	八千代市萱田字萱田道 798番3	12221	242	35度 43分 16秒	140度 6分 14秒	20230822～20230904	上層 184/1625.46	宅地造成
塚堀道路b地点・ 神野群集塚	八千代市神野字塚堀 1068ほか	12221	73 74	35度 45分 53秒	140度 7分 45秒	20231019～20231031	上層 258/2768.48	宅地造成
白幡前道路l地点	八千代市萱田字白幡前 2180-1地	12221	185	35度 43分 36秒	140度 6分 27秒	20231107～20231130	上層 56.5/531.98	宅地造成
下宿東道路c地点	八千代市米本字下宿東 2538-22	12221	108	35度 45分 16秒	140度 7分 11秒	20231122～20231130	上層 55.5/784.22	寄宿舎 建設
白幡前道路m地点	八千代市萱田字牛吹 1815菅地	12221	185	35度 43分 44秒	140度 6分 23秒	20240105～20240111	上層 40/353.71	宅地造成
門原道路c地点	八千代市高津字中村524番	12221	236	35度 42分 58秒	140度 5分 16秒	20240105～20240119	上層 132/1498.61	宅地造成
南海道道路c地点	八千代市萱田字下ノ原1027 番8、萱田町字北海道474番4	12221	182	35度 44分 2秒	140度 6分 33秒	20240213～20240220	上層 10/102.5	個人住宅
上谷津台南道路l地点	八千代市上高野字上谷津台 1054番7	12221	229	35度 43分 25秒	140度 8分 14秒	20240226～20240226	上層 40/427	宅地造成
菅地ノ台道路g地点	八千代市萱田字菅地台 439番1	12221	179	35度 44分 28秒	140度 6分 22秒	20240306～20240311	上層 102/1079.64	宅地造成
道地道路l地点	八千代市平戸字西ノ上 281番1地	12221	18	35度 46分 24秒	140度 6分 40秒	20240318～20240325	上層 76/715.5	個人住宅 ・店舗

遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
高津宮ノ前遺跡c地点	包蔵地	奈良・平安	なし	なし	
井戸向遺跡e地点	包蔵地・ 集落跡	旧石器、縄 文、弥生	なし	なし	
堀久保遺跡a地点	包蔵地	縄文 奈良・平安	なし	なし	
蛸池台遺跡b地点	包蔵地	縄文、古墳 奈良・平安	弥生時代中期方形周溝墓6基	縄文土器(後期)	
南海道遺跡d地点	包蔵地	縄文、弥生、 古墳 奈良・平安	古墳時代堅穴建物跡4棟、 奈良・平安時代掘立柱建物跡1棟、 土坑2基、近現代溝6条	縄文土器(前中期)、古墳時代 (前期)土師器、奈良・平安時 代土師器・須恵器	
高津宮ノ前遺跡d地点	包蔵地	奈良・平安	近世溝1条	縄文土器、近世以降陶磁器・ 土器	
大山遺跡f地点	包蔵地	旧石器、縄 文、弥生	近現代溝2条	縄文土器(中後期)	
白幡前遺跡k地点	包蔵地・ 集落跡	旧石器、弥 生、古墳、 奈良・平安	弥生時代後期堅穴建物跡1棟、 古墳時代後期～奈良・平安時代堅穴建物跡 15棟、掘立柱建物跡3棟・土坑9基	弥生土器(後期)、古墳時代土 師器(後期)、奈良・平安時代 土師器・須恵器	
新林遺跡j地点	包蔵地	縄文 奈良・平安	縄文時代陥穴1基	縄文土器(後期)	
北裏畑遺跡k地点	包蔵地	奈良・平安	なし	奈良・平安時代土師器	
境塚遺跡b地点・ 神野群集塚	包蔵地・ 塚	縄文、弥生、 奈良・平安、 中世、近世	奈良・平安時代堅穴建物跡2棟、 土坑8基、中・近世塚1基	縄文土器(前中期)、奈良・平 安時代土師器・須恵器	
白幡前遺跡l地点	包蔵地・ 集落跡	旧石器、弥 生、古墳、 奈良・平安	なし	なし	
下宿東遺跡c地点	包蔵地	奈良・平安	なし	縄文時代石器、奈良・平安時 代土師器・須恵器	
白幡前遺跡m地点	包蔵地・ 集落跡	旧石器、弥 生、古墳、 奈良・平安	なし	縄文土器(前期)、奈良・平安 時代須恵器、近世土器・陶器	
門原遺跡c地点	包蔵地	奈良・平安	なし	なし	
南海道遺跡e地点	包蔵地	弥生、 奈良・平安	なし	なし	
上谷津台南遺跡l地点	包蔵地	縄文 奈良・平安	なし	なし	
菅地ノ台遺跡g地点	集落跡	縄文、弥生、 古墳、 奈良・平安	縄文時代ビット4基、 古墳時代堅穴建物跡1棟、 奈良・平安時代堅穴建物跡1棟	縄文時代土器(早中期)、弥生 時代土器(後期)、奈良・平安 時代土師器・須恵器	
道地遺跡l地点	集落跡	縄文、弥生	なし	なし	

要 約	高津宮ノ前遺跡 c 地点	遺構・遺物の検出はなかった。
	井戸向遺跡 e 地点	遺構・遺物の検出はなかった。
	短久保遺跡 a 地点	遺構・遺物の検出はなかった。
	蛸池台遺跡 b 地点	弥生時代中期方形周溝墓 6 基が検出された。遺物は縄文土器（後期）が出土した。
	南海道遺跡 d 地点	古墳時代竪穴建物跡 4 棟、奈良・平安時代掘立柱建物跡 1 棟、土坑 2 基、近現代溝 6 条が検出された。遺物は縄文土器（前中期）、古墳時代土師器（前期）、奈良・平安時代土師器・須恵器が出土した。
	高津宮ノ前遺跡 d 地点	近世溝 1 条が検出された。遺物は縄文土器、近世以降陶磁器・土器が出土した。
	大山遺跡 f 地点	近現代溝 2 条が検出された。遺物は縄文土器（中後期）が出土した。
	白幡前遺跡 i 地点	弥生時代後期竪穴建物跡 1 棟、古墳時代後期～奈良・平安時代竪穴建物跡 15 棟、掘立柱建物跡 3 棟・土坑 9 基が検出された。遺物は弥生土器（後期）、古墳時代土師器（後期）、奈良・平安時代土師器・須恵器が出土した。
	新林遺跡 j 地点	縄文時代陥穴 1 基が検出された。遺物は縄文土器（後期）が出土した。
	北裏畑遺跡 k 地点	遺構は検出されなかった。遺物は奈良・平安時代土師器が出土した。
	境廻遺跡 b 地点・ 神野群集塚	奈良・平安時代竪穴建物跡 2 棟、土坑 8 基、中・近世塚 1 基が検出された。遺物は縄文土器（前中期）、奈良・平安時代土師器・須恵器が出土した。
	白幡前遺跡 l 地点	遺構・遺物の検出はなかった。
	下宿東遺跡 c 地点	遺構は検出されなかった。遺物は縄文時代石器、奈良・平安時代土師器・須恵器が出土した。
	白幡前遺跡 m 地点	遺構は検出されなかった。遺物は縄文土器（前期）、奈良・平安時代須恵器、近世土器・陶器が出土した。
	門原遺跡 c 地点	遺構・遺物の検出はなかった。
	南海道遺跡 e 地点	遺構・遺物の検出はなかった。
	上谷津台南遺跡 l 地点	遺構・遺物の検出はなかった。
	菅地ノ台遺跡 g 地点	縄文時代ピット 4 基、古墳時代竪穴建物跡 1 棟、奈良・平安時代竪穴建物跡 1 棟が検出された。遺物は縄文時代土器（早中期）、弥生時代土器（後期）、奈良・平安時代土師器・須恵器が出土した。
道地遺跡 l 地点	遺構・遺物の検出はなかった。	

千葉県八千代市

市内遺跡発掘調査報告書 令和 6 年度

令和 6 年 11 月 12 日発行

発 行 八千代市教育委員会 文化・スポーツ課
千葉県八千代市大和田 138-2
TEL 047-481-0304

印 刷 金子印刷企画
千葉県八千代市萱田 410-1